

近年購入スルニ至ル

九、販賣方法 從來仲買人ノ手ヲ經テ各自販賣

シ來リタルモ近來各地ヨリ製絲家出張シ來リ  
直接購入ヲナシ又共同販賣ヲ爲スニ至ル

十、將來ノ見込 將來有望ノ副産業ナルヲ以テ  
益々獎勵セントス

十一、本業トノ關係 春蠶期ニ於テ勞力ノ關係  
上本業ニ影響スト雖モ勞力ヲ適當ニ分配シ努  
メテ支障ナカラシメントス

一、品 目 生 絲

二、沿 革 古來農家ノ副業トシテ行ハル線  
絲機械ハ手繰器ヲ使用セシモ明治ノ初年本郡  
大原村大字板戸ノ人長次郎ナルモノ一ノ足踏  
繰絲器械ヲ創製シ名ケテ達摩ト稱シ販賣セシ  
ガ頗ル戸内繰絲ニ適スルヲ以テ數年ニシテ廣  
ク行ハル、ニ至リ明治ノ蠶絲業界ノ一新機軸  
ヲ出スニ至レリ

三、産 額 三、七〇〇貫

四、價 額 一七四、〇四一圓

業トシテ之ニ從事セルモノ頗ル多キニ至レリ

一、品 目 眞 綿

二、沿 革 數百年前ヨリ地方ノ物産トシテ  
其名高ク逐年盛大ニ趣キ現今ニテハ全國著名  
ノ生産地トナリタリ

三、産 額 一九、九八五貫

四、價 額 三九九、七〇〇圓

五、從業戶數 三、一三八戸

六、從業期間及  
從業者種類 主トシテ六月中旬ヨリ十月中ナ  
レ共主産地ハ年中從業ス

七、主産地 郡内一圓。息長、法性寺、醒井  
ノ諸村最モ盛ンナリ

八、原料需要供給 地方ハ勿論主トシテ岐阜、  
愛知縣ヨリ購入ス

九、製造法 ゲバト稱スル簡單ナル器具ヲ用  
ヒ製造ス主トシテ玉繭及撰除繭ヲ用ヒ生剝ト  
稱スルモノハ優良ナル玉生繭ヲ用フ  
大凡玉繭一斗ニ對シ重曹二十匁ヲ二斗五升乃  
至三斗ノ水ニ溶解シテ約四五十分煮沸シ精練

一八〇

五、從業戶數 一、六四一戸

六、從業期間及  
從業者種類 毎年七月中旬ヨリ十月中旬迄三  
ケ月間最モ多ク婦女子之ニ從事ス

七、主産地 郡内一圓

八、原料需要供給 其多クハ自家ノ産繭ヲ繰絲  
スルモノナリト雖中ニハ他ヨリ購繭シテ製絲  
スルモノアリ

九、製造法 達摩器ヲ使用シ乾繭約五合ニ沸  
騰シタル湯ニ浸シ小框ニ巻揚ケ後揚返シテ大  
框ニ移シ充分乾燥シ島田束トナス織度細キモ  
ノハ捻絲トナス

十、販賣方法 太絲ハ附近仲買人若クハ地方縮  
緬機業家ニ販賣シ細絲ハ主トシテ福井、石川  
地方ノ羽二重機業地ニ販出ス

十一、將來ノ見込 養蠶家ハ勞力ノ關係上近來  
繭ニテ販賣スルモノ増加シ漸次減退スルノ狀  
況ナリ

十二、本業トノ關係 七月中旬ヨリ九月中迄農  
閑期ニ從事スルヲ以テ本業ニ影響セズ

十三、其他參考事項 近時長濱町ニ於テ戸内工

ス製品ハ販路ノ關係上小判ノモノヲ製シツ、  
アリ

十、販賣方法 京都、大阪、名古屋最モ多シ總  
テ確實ナル商店へ直接販賣ヲ爲ス東京ハ主ト  
シテ袋眞綿ヲ使用スルヲ以テ移出スルコト少  
ナシ

十一、將來ノ見込 需要漸次増加スルヲ以テ益  
々發達ノ見込アリ

十二、本業トノ關係 專業家ヲ除ク外本業ニ大  
ナル關係ナシ

十三、其他參考事項 乾燥繭ヲ用フルトキハ其  
光澤充分ナラザルハ大ニ研究ヲ要ス

一、品 目 梨

二、沿 革 不詳

三、産 額 九、七〇〇貫

四、價 額 二、二八〇圓

五、從業戶數 一、二〇〇戸

六、主産地 神照、法性寺、六莊ノ諸村

七、原料需要供給 苗木ハ地方ニ適當ナルモノ

一八一



ヲ養成ス

- 八、製造法 總テ棚作リトス
- 九、販賣方法 主トシテ高宮地方へ販出スルモ仲買人ノ手ヲ經テ大阪、敦賀、京都方面へ販賣スルモノアリ
- 十、將來ノ見込 需要逐年増加ノ傾向アリ益々有望ト認ム
- 十一、本業トノ關係 害蟲發生ノ場合ハ之レガ驅除ニ手數ヲ要シ幾分關係ヲ及ボスコトアリ
- 十二、其他參考事項 品種、肥培、剪定等改良ノ餘地アリ

- 一、品目 葡萄
- 二、沿革 明治三十年頃盛ニ植栽シタルモ爾來減退ノ傾向アリ
- 三、産額 一、二九〇貫
- 四、價額 四五一圓
- 五、從業戶數 六五〇戶
- 六、從業期間及從業者種類 冬季間手入ヲ充分ニナス
- 七、主產地 鳥居本村

一八二

- 八、販賣方法 主トシテ仲買人ノ手ヲ經テ高宮地方ニ販賣ス
- 九、將來ノ見込 有望ナリ
- 十、本業トノ關係 ナシ

- 一、品目 西瓜
- 二、沿革 不詳
- 三、産額 一九、六〇〇貫
- 四、價額 二、一五〇圓
- 五、從業戶數 二〇〇戶
- 六、從業期間 四月ヨリ八月ニ至ル五ヶ月間農家副業トシテ從事ス
- 七、主產地 鳥居本村大字鳥居本、宮田、古西法寺
- 八、販賣方法 仲買人ノ手ヲ經テ京阪東京地方へ販賣スルモノ約半額アリ其他ハ地方ニテ賣捌キ其用途中元贈物トシテ送付スルモノ多シ
- 九、將來ノ見込 近年次第ニ栽培反別増加シ賣行良好ナリ

- 一、品目 牛蒡

- 二、沿革 往昔ヨリ栽培セルモノニシテ特記スベキ事項ナシ

- 三、産額 一五、三〇〇貫
- 四、價額 四、五五〇圓
- 五、從業戶數 四、五五〇貫
- 六、從業期間及從業者種類 手中男女共
- 七、主產地 醒井村大字樽ヶ畑
- 八、販賣方法 毎年各自十一月中旬ヨリ翌年一二月頃迄地方ノ得意ヲ廻リ注文ノ量ヲ納ムルヲ常トス大抵六貫匁把ヲ一束トシ玄米一斗ニ升當ニ交換ス但シ米價ノ高低ニヨリ相違スルコトアルモ概ネ一斗ヲ降ラズ近來顧客ヲ増加シ京阪、東京、名古屋等ニ販賣スルモノ多シ
- 九、將來ノ見込 栽培反別漸次増加ス

- 一、品目 蔬菜
- 二、沿革 古昔ヨリ栽培セルモノニシテ特記スベキ事項ナシ
- 三、産額 大根 五、〇〇〇貫 茄子 一、〇〇〇貫 蕪菁 一、九〇〇貫

- 四、價額

大根 一、〇〇〇圓 茄子 七〇〇圓 蕪菁 六〇〇圓

- 五、從業戶數 五七〇戶
- 六、從業期間 六月上旬ヨリ十二月迄男女共從事ス
- 七、主產地 入江村大字磯、朝妻筑摩、上多良、中多良、法性寺村大字世繼
- 八、販賣方法 大部分長濱町ニ各自小賣ヲナシ又ハ青物市場ニテ委託販賣ニ附ス
- 九、將來ノ見込 前記村落ハ何レモ湖岸ニ瀕シ米、麥作ハ極メテ僅ニシテ本業ノミニテハ生計ノ向上發展ヲ計ル能ハザルヲ以テ從來副業トシテ蔬菜ノ栽培ヲナシ將來益々栽培法ノ改良種類ノ撰擇ニ努メントス

- 一、品目 加工品(干柿)
- 二、沿革 約百七八十年前ヨリ息長村大字日光寺ニ於テ加工スルコトヲ初メ爾來繼續製造シツ、アリ
- 三、産額 六七五貫
- 四、價額 一、五一二圓

一八三



業者亦續出シ遂ニ縣下屈指ノ物産トナリ從テ

多數ノ賃織業者ヲ生スルニ至レリ

三、産額 四、一九〇反

四、價額 三、七七〇圓

五、從業戶數 一九五戶

六、從業期間及從業者種類 農閑期(婦女子)

七、主產地 南郷里、神照、北郷里、六莊ノ

諸村及長濱町

八、原料需要供給 機業家ノ求メニ應ジ賃織ス

ルモノナリ

九、製造法 木製手織機ヲ用ヒ一反凡ソ三日

ヲ要ス

十、將來ノ見込 現物ノ賣行ト動力製織ノ關係

ニ依リ其影響ヲ受クルモノナレバ豫メト知シ

難シ

十一、本業トノ關係 天鷲絨ノ如キハ年中從事

スルヲ可トスルモノナレバ從テ本業ニ影響ア

リ

一、品目 稻田及溜池養鯉

五、從業戶數 四〇戶

六、主產地 息長村

七、原料需要供給 地方ニテ買入ル、モノトス

八、製造法 生柿ノ皮ヲ剝取リ日光ニテ充分

乾燥ス

九、販賣方法 地方ノ仲買人ヨリ東京、大阪、

京都方面ニ販賣ス主トシテ菓子原料ニシテ賣

行良好ナリ

十、將來ノ見込 有望ナリ

十一、本業ト關係 稻ノ收穫期ニテ本業ニ影響

スル事大ナリ

一、品目 天鷲絨賃織

二、沿革 天鷲絨製織ノ起原ハ遠ク三四百

年以前ニ在リ明治ノ初年唐天ト稱スル綿天鷲

絨ノ輸入ニ依リ一時不振ノ状態ニ在リシガ明

治三十七年日露戰役ノ際出征軍人家遺族救護

ノ目的ヲ以テ地方有志者本業ノ興隆ヲ圖リ近

江ヅエルベツト合名會社ノ成立ヲ見テ天鷲

絨製織合名會社ノ設立ヲ見ルニ至リ個人ノ起

二、沿革 不詳

三、産額 一、六三〇貫

四、價額 一、九五〇圓

五、從業戶數 六〇戶

六、養鯉地 神田、西黒田、醒井ノ諸村

七、鯉需要供給 地方商人ヨリ買入ル、ヲ普

通トス

八、養殖法 餌料ハ蠶蛹、醬油粕等ヲ供給シ

稻田ノモノハ四月苗代田へ鯉兒ヲ放流シ六月

上旬、本田ニ移ス

九、販賣方法 仲買人ヲ經テ地方ニ販賣セリ

十、將來ノ見込 需要狀況良好ナルヲ以テ隨テ

從業者増加スルナラン

一、品目 杉、扁柏、松、苗木

二、沿革 不詳

三、産額 杉一八〇〇〇本 扁柏八六〇〇〇本 松一〇〇〇〇本

四、價額 四、〇〇〇圓

五、從業戶數 組合団体等十一ヶ所

六、從業期間及從業者種類 四月ヨリ十月迄男子

業者亦續出シ遂ニ縣下屈指ノ物産トナリ從テ

多數ノ賃織業者ヲ生スルニ至レリ

三、産額 四、一九〇反

四、價額 三、七七〇圓

五、從業戶數 一九五戶

六、從業期間及從業者種類 農閑期(婦女子)

七、主產地 南郷里、神照、北郷里、六莊ノ

諸村及長濱町

八、原料需要供給 機業家ノ求メニ應ジ賃織ス

ルモノナリ

九、製造法 木製手織機ヲ用ヒ一反凡ソ三日

ヲ要ス

十、將來ノ見込 現物ノ賣行ト動力製織ノ關係

ニ依リ其影響ヲ受クルモノナレバ豫メト知シ

難シ

十一、本業トノ關係 天鷲絨ノ如キハ年中從事

スルヲ可トスルモノナレバ從テ本業ニ影響ア

リ

一、品目 稻田及溜池養鯉

七、主產地 柏原、春照、伊吹、醒井ノ諸村

八、原料需要供給 種子ハ主トシテ他府縣ヨリ

購入ス

九、栽培法 苗床ヲ設ケ年二回移植ヲ爲ス

十、販賣方法 地方植林者ノ需要ニ應ズ

十一、將來ノ見込 縣外ヨリ購入スルヲ得策ト

シ漸次減少ノ傾向アリ

一、品目 林産採取(菌茸類)

二、沿革 往古ヨリ採取モ特ニ記スベキ事

項ナシ

三、産額 一三五、〇〇〇斤

四、價額 一六、〇〇〇圓

五、從業戶數 五八〇戶

六、從業期間及從業者種類 十、十一月中男女

七、主產地 鳥居本、息長、西黒田ノ諸村

八、販賣方法 地方販賣ノ外ハ仲買人ノ手ヲ經

テ主トシテ東京、北陸地方へ販出ス賣行不良

ノ場合ハ罐詰トシテ販賣セリ

九、將來ノ見込 近來都會へノ販賣高著シク増



加シ需要ノ狀況佳良ナリ

- 一、品目 藥草
- 二、沿革 不詳
- 三、産額 一三、八五〇斤
- 四、價額 一、三八五圓
- 五、從業戸數 三〇戸
- 六、從業期間及從業者種類 八月下旬ヨリ十月月上旬迄男女之ニ從事ス
- 七、主産地 伊吹村
- 八、製造方法 伊吹山中ニ産スル藥草ヲ寸斷シテ乾燥シ之ヲ布ノ袋ニ入レ湯中ニ煎シ入浴探暖ニ用ユ名ケテ百草ト稱ス
- 九、販賣方法 女子冬期間ニ行商ヲナシ又藥種商ノ手ヲ經テ東京、京都方面ヘ販賣ス
- 十、將來ノ見込 賣行良好ナルニ付有望ト認ム
- 一、品目 木炭
- 二、沿革 特ニ記スベキ事項ナシ
- 三、産額 一六〇、〇〇〇貫

- 四、價額 一八六、〇〇〇圓
- 五、從業戸數 三五戸
- 六、從業期間及從業者種類 主トシテ八月ヨリ翌年、三月頃迄男子
- 七、主産地 醒井、鳥居本、伊吹、柏原ノ諸村
- 八、販賣方法 地方ノ需要ニ充ツルノミ
- 九、將來ノ見込 發達ノ見込ナシ
- 一、品目 桑苗
- 二、沿革 從來伏木法ニ依リ細江、九紋龍、彦次郎等ノ種類ヲ栽培セシモ近時接木法ニ依リ早中生桑ノ苗木ヲ生産スルモノ増加スルニ至レリ
- 三、産額 九七〇、〇〇〇本
- 四、價額 一一、七〇〇圓
- 五、從業戸數 一三〇戸
- 六、主産地 六莊、長濱、神照、南郷里ノ各町村
- 七、栽培法 取木ニアリテハ一反歩ニ付約二千本程ノ伏木用苗木ヲ傾ケテ栽植シ四、五寸

- ニ新芽ノ伸ビタルトキ土中ニ埋メテ根ヲ出サシムルノ方法ニシテ一反約一萬本ノ良苗ヲ生産ス、
- 接木ハ春陽四月頃接穂ヲ砧木ニ接合シ一時假植シテ後本圃ニ移植ス一反歩ニ一萬二千本乃至一萬五千本ヲ栽植シ一萬本前後ノ良苗ヲ生産ス
- 八、販賣方法 從來福井、岐阜、京都地方ニ販賣セシガ細江桑ハ萎縮病ニ罹リ易キ欠點アルト取木苗ハ枯損シ易キヲ以テ會ニ於テハ縣内ノ需要ヲ充タスニ過ギズ
- 九、將來ノ見込 接木ハ漸次盛大トナルベク取木ハ現状維持又ハ幾分ノ減少ハ免レザルベシ
- 十、本業トノ關係 別段支障ナシ

### 十、東淺井郡

- 一、品目 養蠶(繭)
- 二、沿革 蠶業ノ由來ハ太ダ遠ク其創始ヲ知ルニ由ナシト雖モ往古ヨリ家業トシテ繼承

- 子々孫々之レニ從事シ今日ニ至レリ
- 三、産額 春繭 六〇七三石 夏繭 八、九三石 計 三、四九六石
- 四、價額 春繭 三〇、一四〇圓 夏繭 二五、九三三圓 計 五六、〇七三圓
- 五、從業戸數 四、五七〇戸(實戸數)
- 六、從業期間及從業者種類 四月中旬ヨリ十月下旬迄從業者ハ男女老幼共全部
- 七、主産地 郡内各村
- 八、原料需要供給 原料タル蠶種ハ地方又ハ他府縣ノ製造家ヨリ購入シ桑葉ハ自家生産ニ係ル者ヲ供給シ幾分他ヨリ購入供給スルコトアリ
- 九、製造法
  - 1、製造順序 蠶種ヲ催青發芽セシメ箔ニ入レ日夜數回給葉除砂分箔ナシ眠起ニ注意飼育シ上簇シテ繭ヲ得
  - 2、用具 蠶座、蠶網、苴、棚、桑切臺
  - 3、工程 時期ニヨリ差異アルモ早キハ二十四五日、遅キハ三十四五日間飼育上簇後六、七日間ニテ精繭トナル



十、販 賣

- 1、製品ノ用途 製絲家ノ手ニ據リテ生絲トシテ織物其他ノ原料トナル
- 2、仕向地及需 全國ノ製絲家生繭ノ出廻期ニ於テ長濱町及郡内各地へ出張購繭ヲナスニヨリ地方仲買人ノ手ヲ經ルモノ又ハ直接賣却スルモノ等アリ
- 3、販賣方法 搔キ落シタル繭ヲ玉、屑等ニ分類精選ヲナシ或者ハ全部ヲ或者ハ見本トシテ小部分ヲ持參市場又ハ仲買店ニ至リ價額ヲ附セシメ自己ノ意ニ任ジテ販賣スルモノナリ
- 11、將來ノ見込 前途益有望發達ノ餘裕ナキガ如キモ退歩ノ杞憂ナク日進月歩改良ニ腐心シツ、アリ
- 12、本業トノ關係 本業タル農業ト兩立殆ンド其何レカ本業タルヤ何レガ副業タルヤヲ分チ難キ迄ニ發達シ居レリ春蠶ニ於テハ農耕ノ多忙期殊ニ其上簇前ハ插秧期ニテ勞力ノ不足甚敷殆ンド晝夜兼行ノ狀態ニアリ夏蠶期ハ除

草其他ニテ多忙ナルノ如クニアラズサレバ近時ハ農閑ノ時期ニ於テ比較的成績良好ナル秋蠶ニ重キヲ置クノ傾向トナレリ

- 一、品 目 蠶 種
- 二、沿 革 本郡大郷村大字南濱ハ夏蠶種ノ本場トシテ其製造額頗ル多ク廣ク各府縣ニ販出セシガ各地ニ蠶種製造業ノ隆盛トナルニ及ンデ漸次衰頽ニ陥リタリ由來本郡ハ蠶種製造ノ業盛ンニシテ郡内物産ノ一トナリ其創始ハ極メテ今之ヲ知ルニ由ナシ
- 二、産 額 特別蠶種 一二六、〇七〇枚  
普通蠶種 二二、五三二枚  
八五、五六七圓
- 四、價 額 一〇二圓
- 五、從業戶數 從業期間及從業者種類  
四月中旬ヨリ九月下旬迄壯年男女從事ス
- 七、主産地 上草野、下草野、湯田、田根、小谷、虎姫、速水、朝日、竹生、大郷ノ各村
- 八、原料需要供給 原種ハ縣原蠶種製造所ヨリ

供給ヲ受ケ尙他ヨリ優良ノモノヲ購入飼育ヲナス

九、販 賣

- 1、仕向地及需 福井、石川、京都ノ各府縣ニ移出シ其他地方ノ養蠶家ノ需要ニ應ズ
- 2、販賣方法 主トシテ行商ノニシテ代金ハ收繭後徵集スルモノ多ク間々現金取引ヲ爲スアリ
- 10、將來ノ見込 將來有望ナルモ蠶種家ハ一層原種ヲ撰擇シ良蠶種ヲ製造スルニアラズンバ他ニ凌駕セラル、ノ虞レアリ
- 11、本業トノ關係 本業ニ別段關係ナシ

- 一、品 目 製 絲 (生絲、玉絲)
- 二、沿 革 養蠶(繭ニ同ジ)
- 三、産 額 生絲 八六三貫 玉絲 八三三貫
- 四、價 額 同 四〇五九元圓 同 二五七六元圓
- 五、從業戶數 同 三七八戸 同 二〇七戸  
(内二〇〇戸ハ生絲ト兼業)
- 六、從業期間及從業者種類 六月ヨリ十月迄自家ノ婦女子又ハ他ヨリ工女ヲ雇入レ從事ス、玉絲ノ内一戸

ハ年中從事ス(期間ハ各戸ニ依リ差異アリ五ヶ月間ハ最モ長キモノヲ示セリ)

- 七、主産地 郡内各村(但シ玉絲ハ朝日村大字田中ニ於テ製絲場ヲ設置ス)
- 八、原料需要供給 多クハ自己ノ生産繭ヲ使用シ其他地方ノ産繭又ハ郡外(伊香、阪田、高島)及岐阜縣ヨリ仕入ヲナス向アリ
- 九、製造法 1、製造順序 生繭ヲ乾燥シ乾繭ヲ適宜ニ煮主トシテ達摩器械ニヨリ繰絲ス玉絲ハ座繰器械トス
- 2、用 具 爐、達摩器械、煮鍋、小杵、揚返機等
- 3、工 程 製絲一貫目ニ約十二日間ノ日子ヲ要ス
- 十、販 賣 1、製品ノ用途 主トシテ濱縮繭ノ原料トナル、織度細キモノハ京都西陣織、福井、金澤羽二重織ノ原料トナル
- 2、仕向地及需 主トシテ阪田郡長濱町及其附近



近福井市、京都市等ナルモ製法粗雜ノ爲メ

其多クハ濱縮緬用ノ外殆ンド他ノ織物ニ適

セス故ニ一朝縮緬等ノ不振ニ遭遇スルトキ

ハ粗製絲ハ其捌キ口ニ困難ヲ極ム

3、販賣方法 地方仲買人又ハ縮緬機業家又

ハ京都市西陣機業家福井縣羽二重機業家ニ

現金又ハ後金ニテ販賣ス

11、將來ノ見込 斯業ノ改良程度ニ依リ左右

セラルベク蠶絲ハ我邦唯一ノ國產物ナレバ今

後益改良ニ改良ヲ加ヘ大ニ隆盛ノ域ニ達セシ

メザルベカラズ

12、本業トノ關係 本業ニハ別段關係ナシ

一、品目 真綿

二、沿革 往古ヨリ製造シツ、アルモ詳細

ハ不明ナリ

三、産額 三九三貫(主トシテ自家用)

四、價額 七、八六〇圓

五、從業戸數 二、八五一戸

六、從業期間及從業者種類 養蠶期末ニ於テ僅ニ自家ノ婦女

子ヲシテ從事セシム

七、主產地 郡内各村

八、原料需要供給 自家生産ノ玉繭、屑繭、出

穀繭等ナリ

九、製造法

1、製造順序 原料繭ヲ生灰汁ニテ煮形枠ニ

テ一個ヅ、繭皮ヲ剝ギテ張り付ケ後乾燥ス

2、用具 形枠、鹽

3、工程 何レモ角形ニシテ一人一日約

百匁ナリ

10、販賣方法 主トシテ自家用ニシテ販賣ニ付

スルモノ絶テ稀ナリ

11、將來ノ見込 將來ハ販賣用トシテ獎勵ヲ

加フル見込

12、本業トノ關係 本業トノ關係ナシ

一、品目 養畜(牛生産)

二、沿革 畜牛ノ起原ハ漠トシテ知ルベカ

ラザルモ口碑ノ傳フルトコロニ依レバ本郡東

草野村大字甲津原ハ美濃國揖斐郡ヲ距ル四里

種牡牛ヲ借受ケ種付ヲ獎勵セルモノニ付毎

年仔牛品評會ヲ開催シ其後賣却スルノ規程

ナリ而シテ多クハ現金取引トス

10、將來ノ見込 有望ト認ム

11、本業トノ關係 本業ニハ何等關係ナシ

一、品目 養禽(鷄、鶯)

二、沿革 沿革不詳ナルモ明治二十年頃ヨ

リ飼養シツ、アリテ其盛衰ハ米價ニ關係セル

モノ、如シ

三、産額 成禽雞共鷄 六四七羽 産卵鷄 三六四五個

同 鷄 六五羽 鷄 六五七個

四、價額 同 三九七圓 同 九三三圓

五、從業戸數 同 三六圓 同 一六圓

六、從業期間及從業者種類 年中飼養シ老幼男女之ニ當ル

七、主產地 郡内各村

八、原料需要供給 自家生産ノ卵ヲ孵化セシメ

之レヲ飼養シ又ハ他ヨリ雛ヲ購入シテ飼育ス

九、販賣 賣

畜牛ノ多キ地方ナリ始メ同大字ノ當業者揖斐

郡ニ至リ種付ヲナセシガ其後明治二十五年頃

ニ至リ生産ノ有利ナルモ種付ノ不便ナルヲ歎

キ自ラ種牡牛ヲ購入シテ一般ノ希望ヲ充シタ

リ然レドモ種牛劣悪ニシテ聲價ヲ高ムル能ハ

ザリシガ其後明治三十七年ニ至リ縣農會ニ申

請シテ同年十月優良和種牡牛ノ貸付ヲ受ケ爾

後縣ヨリモ同様貸付ヲ受ケ大ニ改良發達ノ域

ニ進ミ今日ニ至レリ

三、産額 仔牛 五一頭

四、價額 同 一、五三〇圓

五、從業戸數 同 五〇戸

六、從業期間及從業者種類 年中從事ス

七、主產地 東草野村

八、種牡牛 從來縣及縣農會ヨリ貸付ヲ受ク

現在種牡牛二頭内一頭ハ縣ヨリ貸付ヲ受ケ一

頭ハ東草野村農會ノ所有トス

九、販賣 賣

1、仕向地及需 岐阜縣及郡内

2、販賣方法 本事業ハ村農會ノ事業トシテ



- 1、仕向地及需要ノ状況 産卵ハ主トシテ地方ニ於テ販賣ス
- 2、販賣方法 自家用ノ外ハ飼育者又ハ商人ニ現金取引ニテ販賣ス
- 10、將來ノ見込 副業トシテ適當ナルヲ以テ漸次發達ノ見込
- 11、本業トノ關係 本業ニ別段關係ナシ

- 一、品目 藁製品(草履、草鞋)
- 二、沿革 虎姫村特種部落ニ於テ古ヨリ製造シツ、アルモノニシテ其創始ヲ知ルニ由ナシ
- 三、産額 〇
- 四、價額 三五五圓
- 五、從業戸數 三〇戸
- 六、從業期間及從業者種類 農繁期中ヲ除ク外從業シ主トシテ婦女子之ニ當ル
- 七、主產地 虎姫村大字小櫻
- 八、原料需用供給 原料タル藁ハ地方農家ヨリ

買入レ使用ス

- 九、製造法 藁ヲ打テ和グ手ニテ編ミ造ルモノナリ
- 2、工程 一日ノ工程十足乃至十五足
- 10、販賣 1、仕向地及需要ノ状況 仕向地ハ地方ニシテ需要多大ナリ
- 2、販賣方法 現金ニテ取引ヲナス
- 11、將來ノ見込 將來有望ト云フヲ得ザルモ特種部落婦女子ノ事業トシテ繼續スベシ
- 12、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ

- 一、品目 竹製品(蠶座、籠類)
- 二、沿革 數年前ヨリ開始セリ(福井地方ニテ習得シタルモノナト、云フ)
- 三、産額 蠶座 一、二〇〇枚
- 四、價額 同 一八〇圓 籠類六〇圓
- 五、從業戸數 三戸
- 六、從業期間及從業者種類 八月ヨリ翌年六月迄ニシテ壯男

之レニ從事ス

- 七、主產地 速水村大字速水、朝日村大字山本
- 八、原料需要供給 原料タル竹材ハ地方及高島郡ヨリ供給ヲ受ク
- 九、販賣 1、製品ノ用途 蠶座ハ食蠶用、籠ハ日常用品
- 2、仕向地及需要ノ状況 地方ニテ販賣
- 3、販賣方法 現金取引ニシテ間々行商ヲナス
- 10、將來ノ見込 地方ノ需要ヲ幾部分充シツ、アル者ニシテ必要ナルモ將來發達ノ見込ナシ
- 11、本業トノ關係 本業ニ別段關係ナシ
- 一、品目 石灰
- 二、沿革 明治二十年頃ヨリ肥料用ニ供スル爲メ始業セシモノナリ
- 三、産額 販賣用 九三、五〇〇貫
- 四、價額 二、三三〇圓

- 五、從業戸數 三戸
- 六、從業期間及從業者種類 每年六月下旬ヨリ八月月上旬迄一家從事ス

- 七、主產地 七尾村大字今莊、野村
- 八、原料需要供給 地先姉川ニ散在セル灰石ヲ採取ス
- 九、製造法 1、製造順序 採取セル石ヲ普通拳大ノ大サニ打チ碎キ石灰竈ニ一段毎ニ薪及石炭ヲ交互ニ打チ竝べ下ヨリ點火シ一定ノ時間ヲ經テ石灰ト化ス此ノ化シタルモノヲ取出シ俵ニ詰メ搬出ス
- 10、販賣 1、製品ノ用途 肥料
- 2、仕向地及需要ノ状況 部内農家ノ肥料トシテ販賣ス
- 3、販賣方法 需要ニ應ジ幾何ニテモ供給スルノ状況ナリ主トシテ後金ニテ販賣ス
- 11、將來ノ見込 將來著シク發達セザルモ又退歩スル等ノコトナキガ如シ
- 12、本業トノ關係 本業ニハ關係ナシ



一、品目 果 樹 (水蜜桃、梨、苹果)

二、沿革 園藝思想ノ發達ニ伴ヒ水蜜桃ハ十數年以前ヨリ林野等ヲ開墾シテ果樹園ヲ設ケ栽培セリ梨ハ虎姫村大字宮部ニ宮部梨ト稱シテ凡ソ百年以前ヨリ栽培シツ、アリシガ近時附近村落ニ於テモ幾分栽培セリ苹果ハ小谷村ノ一部ニ於テ一ノ果樹園ヲ設ケ從來ヨリ栽培セリ

三、産額 賣取用水蜜桃 一〇〇〇貫 梨 一五〇〇〇貫  
苹果 一〇〇〇貫

四、價額 水蜜桃 三〇〇圓 梨 一五〇〇圓  
苹果 四〇〇圓 西月梨 五〇圓

五、從業戶數 從業期間及從業者種類  
業セルモノニシテ一家族之レニ從事ス

六、主產地 水蜜桃 湯田村、小谷村、朝日村、竹生村、大郷村ノ一部  
梨 虎姫村、湯田村、小谷村、朝日村、竹生村、大郷村ノ一部  
苹果 小谷村ノ一部

八、販賣 賣

一、品目 西 瓜

二、沿革 虎姫村大字三川ニ三川西瓜ト稱シテ從來ヨリ栽培セリ其他ニ於テモ近時多少栽培セルモノモ何レモ自家用ニ過ギス

三、産額 販賣用五、〇〇〇貫

四、價額 七五〇圓

五、從業戶數 從業期間及從業者種類  
四月ヨリ八月迄本業ノ傍ラ時々從業シ一家族從事ス

七、主產地 虎姫村大字三川、宮部

八、原料需要供給 自家生産ノ澁柿ヲ採取使用ス

九、製造法  
1、製造順序 生柿ヲ唐臼ニテ搗キ碎キ後壓搾器ニテ搾取ス  
2、用具 臼、壓搾器  
3、工程 一人一日約五斗ヲ製ス

十、販賣 傘、澁紙、蠶網、漁用網等ノ塗布用  
1、製品ノ用途  
2、仕向地及需要ノ状況 郡内湖邊ノ各村及高島郡坂田郡長濱地方ナリシガ近時伊勢、美濃地方ニ移出ス  
3、販賣方法 樽詰トシテ輸送シ地方ハ製造人自ラ擔桶ニテ送付ス現金又ハ後金取引ナリ  
十一、將來ノ見込 將來ト雖モ現在ト甚シク異ナルナシ  
十二、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ

八、販賣 賣

1、仕向地及需要ノ状況 主トシテ地方ナルモ間々阪田郡長濱地方へ移出ス

2、販賣方法 地方料理店等ニ現金又ハ後金ニテ販賣シ個人ニ對シテハ現金ニテ小賣ヲナス

九、將來ノ見込 發達ノ餘裕無キモノ、如シ

十、本業トノ關係 本業ニハ關係ナシ

一、品目 柿 澁

二、沿革 數十年前以前ヨリ僅ニ製造シ郡内ノ需要ヲ滿シツ、アリシガ十年前以前ヨリ原料ノ關係ヨリ製造高増加シ他府縣へ移出スルニ至レリ

三、産額 販賣用 一七〇石

四、價額 一、七〇〇圓

五、從業戶數 一三戸

六、從業期間及從業者種類 八月中旬ヨリ九月中旬迄一家族之ニ從事ス

七、主產地 湯田村大字大路、内保

八、原料需要供給 自家生産ノ澁柿ヲ採取使用ス

九、製造法  
1、製造順序 生柿ヲ唐臼ニテ搗キ碎キ後壓搾器ニテ搾取ス  
2、用具 臼、壓搾器  
3、工程 一人一日約五斗ヲ製ス

十、販賣 傘、澁紙、蠶網、漁用網等ノ塗布用  
1、製品ノ用途  
2、仕向地及需要ノ状況 郡内湖邊ノ各村及高島郡坂田郡長濱地方ナリシガ近時伊勢、美濃地方ニ移出ス  
3、販賣方法 樽詰トシテ輸送シ地方ハ製造人自ラ擔桶ニテ送付ス現金又ハ後金取引ナリ  
十一、將來ノ見込 將來ト雖モ現在ト甚シク異ナルナシ  
十二、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ



- 一、品目 縮緬
- 二、沿革 今ヲ去ル百五十年前本郡難波村ニ中村林助、乾庄九郎ト云フモノアリ居村難波ガ毎歲水害ヲ蒙リ耕地ノ利益少キヲ憂ヒ二人相謀リ婦女子ニ適當ナル職業ヲ授ケント欲シ種々苦心ノ結果親ヲ其法ヲ習得シ之レヲ村民ニ授ケシニ始マレリ
- 三、産額 一、二、三三一反
- 四、價額 一五四、一三八圓
- 五、從業戸數 一二戸
- 六、從業期間及從業者種類 年中農家ノ子女ヲシテ從事セシムト雖モ間々岐阜、福井兩縣地方ヨリ婦女子ヲ雇入レ從事セシムルモノアリ
- 七、主產地 大郷村大字川道、細江、南濱、虎姫村大字大井、酢村、湯田村大字内保、七尾村大字南池
- 八、原料需用供給 原料生絲ハ地方産出ノ達摩製絲ノ太絲ヲ用ヒツ、アリシガ近時玉絲ヲ使用シ三州、遠州地方ヨリ輸入シ居レリ
- 九、製造法

- 1、製造順序 家内工業ニシテ生絲ヲ撚リ合セ之ヲ縦トシテ機臺ニ仕組ミ緯絲モ亦生絲ヲ撚リ合セ管ニ卷キ織上グルモノナリ後練屋ニ托シテ練上ゲシム
- 2、用具 機臺、絲燃器等
- 3、工程 普通工女ニテ一反ヲ織上グルニ一日三分ヲ要スベシ
- 十、販賣
- 1、製品ノ用途 練上ゲ後衣服地、友仙染地羽織地、兵兒帶地等トス
- 2、仕向地及需要ノ状況 本品ハ總テ内國用ニシテ殆ンド京都商人ニ賣渡シ幾分地方産地ニテ練上ゲ地方ノ需要ニ供シツ、アリ
- 3、販賣方法 製品ノ販賣ハ織上ノ儘地方仲買人ニ賣渡スモノ多ク價格ハ原料タル絲價ニ伴ヒ現金又ハ後金ニテ賣渡スモノナリ
- 十一、將來ノ見込 經濟界ノ狀況或ハ流行ノ風潮ニ伴ヒ盛衰免レズト雖モ今後一段ノ改善ヲ要スルモノトス
- 十二、本業トノ關係 本業ニ別段關係ナシ

- 一、品目 天鷲絨
- 二、沿革 往古ヨリ天鷲絨ノ製織者アリテ一時ハ盛大ナリシガ一衰アリ維新前後ヨリ其跡ヲ絶ツニ至ル明治四十三年大郷村大字八木濱ニ於テ數人共同シテ坂田郡石田ヨリ教師ヲ聘シテ之レガ製織ヲ創メ以テ今日ニ至レリ
- 三、産額 綿綿交織 一、七三〇反  
綿綿交織 八、九〇〇反  
綿綿交織 一、二一〇〇圓
- 四、價額 三、二〇〇圓
- 五、從業戸數 年中農家ノ子女之ニ從事ス
- 六、從業期間及從業者種類 大郷村大字八木濱
- 七、主產地 大郷村大字八木濱
- 八、原料需用供給 原料綿絲ハ大阪地方ノ紡績會社ヨリ供給ヲ受ク
- 九、製造法
- 1、製造順序 所要ノ絲ヲ以テ無地物或ハ縞物等夫々織上グベク機臺ニ仕付ケ一箇毎ニ針金ヲ織込ミ織上グルナリ
- 2、用具 針金及手織機等
- 3、工程 一反ノ工程一人二日乃至三日

- 十、販賣
- 1、製品ノ用途 主トシテ鼻緒地ニ使用シ其他袋地、帽子、卓子掛等ニ使用セラル
- 2、仕向地及需要ノ状況 鼻緒地トシテハ東京、大阪、京都、名古屋等其主ナルモノナリ其他ノ用途ニ付テハ販路ハ殆ンド全國ニ涉レリ
- 3、販賣方法 直接商人ニ販賣シ仲買人等ノ手ヲ經ルモノナシ
- 十一、將來ノ見込 今後益々斯業ノ發展ヲ圖リツ、アレバ有望ト認ム
- 十二、本業トノ關係 農蠶業等ニ關係ナキ子女ヲシテ當ラシムル故本業ニ別段關係ナシ
- 一、品目 天鷲絨貨織
- 二、沿革 大郷村ニ於ケル貨織業者ハ同村ニ天鷲絨製織者アルニ起因シ其他ハ農家婦女子ノ副業ヲ獎勵スル爲メ大正元年ヨリ郡ニ於テ天鷲絨製織ノ講習ヲ開始セシガ起因トナレリ
- 三、産額 三、三〇〇反



四、價額 一、六六〇圓  
五、從業戶數 五五戶

六、從業期間及從業者種類 大郷村ハ年中其他ハ九月ヨリ十月迄及十二月ヨリ翌年四月迄農家ノ婦女子從事ス

七、主產地 大郷村大字八木濱、上草野村大字野瀬、田根村大字上野、小室、野田、高畑瓜生、田川、池奥、谷口、里部

八、原料需用供給 原料ハ大郷村ハ同村內ノ織元ヨリ其他ハ坂田郡石田ウエルベツト會社ヨリ供給ヲ受ク

九、製造法 1、製造順序 織元ニ於テ所要ノ絲ヲ以テ製織シ得ベキ準備ヲ調ヘ賃織者ニ交付スルモノナルニ付賃織者ニ於テハ自家ノ手織機ニ卷付ケ織出スモノナリ

2、用具 手織機臺一式  
3、工程 一反ノ工程一人二日乃至三日

十、將來ノ見込 天鷲絨ノ需用ノ程度ニヨリ左右セラルベキモ今日ニ於テハ前途有望ナリ

十一、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ

一、品目 水産製造物(鮎、鮎、蝦)

二、沿革 十數年以前大津地方ニ於テ傳習シ來レルモノナリ

三、産額 一、四八五貫(鮎、鮎、蝦)

四、價額 一、六二七圓  
五、從業戶數 六戶

六、從業期間及從業者種類 五月乃至九月ニシテ一家ノ主婦之レニ從事ス

七、主產地 朝日村、大郷村

八、原料需用供給 琵琶湖及其他河川ニ於テ漁獲シタルモノヲ用フ

九、製造法 1、製造順序 漁獲シタルモノヲ醬油、水飴砂糖ヲ以テ調味製造スルモノナリ

十、販賣 1、仕向地及需 仕向地ハ京津地方及當地方ナリ  
2、販賣方法 遠隔ノ地ニ送ルハ箱詰又ハ樽

八、原料需用供給 原料稚魚ハ縣内及大和、美濃地方ヨリ購入ス

九、販賣 1、製品ノ用途 食用及放流用  
2、仕向地及需 地方ニ於テ販賣ス  
3、販賣方法 現金取引トス  
十、將來ノ見込 將來發達ノ見込ナキモノ、如シ

十一、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ

一、品目 林産採取(菌茸類)

二、沿革 菌茸ノ採取ハ個人ノ所有地ト雖モ舊慣ニヨリ一定ノ期間ヲ限リ入林ヲ禁ジ採取權ヲ競争入札ニ付シ其所得ヲ部落ノ收入ニ充ツルノ慣例アリ

三、産額 松茸 四、〇〇〇貫目  
雜菌類 二、〇〇〇貫目

四、價額 松茸 二、四〇〇圓  
雜菌類 七〇圓  
五、從業戶數 六〇戶  
六、從業期間及從業者種類 九月下旬ヨリ十一月上旬迄一家

詰トシテ現金又ハ後金ニテ販賣ス當地方ハ多ク現金取引ナリ

十一、將來ノ見込 漸次増加ノ見込ナリ

十二、本業トノ關係 本業ニ別段關係ナシ

一、品目 養殖(稻田及溜池養鯉)

二、沿革 近時副業トシテ僅ニ行フニ過ギザルモ朝日村及大郷村大字川道ハ公有水面ニ通ズル私有水面ニ於テ區劃漁業トシテ營業セリ

三、産額 稻田面積四反歩收量 二二貫目  
池面積六町三歩反收量 三二八貫目

四、價額 同 三二二圓  
同 三六八圓  
五、從業戶數 同 五戶  
同 二六戶

六、從業期間及從業者種類 年中時々從事スルモノニシテ一定ノ期間從業スルモノニアラズ從業者ハ主トシテ男子ナリ

七、主產地 上草野村大字草野、七尾村大字北池、田根村大字池奥、高畑、朝日村大字石川、津里、東尾上、大郷村大字川道、難波



族從事ス

七、主產地 上草野村ノ一部、下草野村、七尾村、湯田村ノ一部、田根村、小谷村、虎姫村ノ一部、朝日村ノ一部

八、販賣

1、仕向地及需 北陸地方ニ移出シ其他坂田郡長濱地方及地方需用者ニ供給ス

2、販賣方法 主トシテ仲買人ニ現金又ハ後金ニテ販賣シ間々個人ニ現金ニテ販賣ス

九、將來ノ見込 將來ト雖モ産額ニ付テハ現在ト敢テ異ルコトナキモノ、如シ

十、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ

一、品目 木 炭

二、沿革 林地住民副業トシテ古來ヨリ行ハル

三、産額 一八六、七七〇貫

四、價額 二〇、五四五圓

五、從業戸數 二〇〇戸

六、從業期間及從業者種類 四月ヨリ六月迄及九月ヨリ十一月迄

月迄ノ間ニシテ製造ハ主トシテ男子之レニ當

レリ運搬ニハ婦女子モ共ニ從事ス

七、主產地 東草野村、上草野村

八、原料需用供給 原料ハ地方森林ノ雜木ヲ伐採シテ使用ス

九、製造法

1、製造順序 伐採シタル木材ヲ竈ニ積ミ込

ミ燻蒸スルモノナリ

2、工程 百貫久製造スルニハ約九日間ノ日數ヲ要ス

十、販賣

1、仕向地及需 阪田郡長濱地方及郡内ニシテ要ノ狀況 需要ハ盛ンナリ

2、販賣方法 主トシテ現金取引ナリ

十一、將來ノ見込 日常品ナレバ將來ト雖モ變化スルコトナシ

十二、本業トノ關係 本業ニハ何等關係ナシ

一、品目 桑 苗

二、沿革 養蠶地トシテ從前ヨリ生産セル

モ中途一時衰頽シ現金稍生産増加ノ傾向アリ

三、産額 販賣用 七二、〇〇〇本

四、價額 八〇五圓

五、從業戸數 二三戸

六、從業期間及從業者種類 植栽ヨリ採取迄年内時々從業スルモノニシテ一定ノ期間ナシ從業者ハ男女共

從事ス

七、主產地 上草野村大字野瀬、寺師、西村、太田、湯田村大字尊野、平塚、西野、湯次、小谷村大字伊部、虎姫村大字三川、大寺、朝日村大字山本、竹生村大字早崎、大郷村大字細江

八、原料需要供給 接木ハ原料タル接臺接穂ハ坂田郡及岐阜、兵庫、愛知ノ各地方ヨリ供給ヲ受ケ實生ハ自家生産品ヲ用フ

九、栽培法

1、栽培順序 四、五月ノ交各苗木ヲ苗圃ニ植栽シ翌年三月ノ交採取スルニ止マレリ

十、販賣

1、仕向地及需 仕向地ハ郡内及坂田郡、伊香

郡ノ各一部需要多クシテ充分供給スルヲ得ズ

2、販賣方法 主トシテ現金取引ナルモ間々後金ニテ販賣ス

十一、將來ノ見込 桑園ノ改良ヲ計ル爲メ將來益々有望ト認ム

十二、本業トノ關係 本業ニ別段關係ナシ

一、品目 製 茶

二、沿革 往古ヨリ釜ニテ製茶シ來リシガ明治七年ノ頃岐阜縣ヨリ茶職工下草野村大字醍醐ニ來リ爐ヲ以テ製茶スルコトヲ傳習ス、是レ本郡製茶ノ改良者タリ爾來當業者ニ傳習シ今日ニ至レリ

三、産額 自家用 四、六三一貫匁 販賣用 四二一貫匁

四、價額 販賣用 一、一三七圓

五、從業戸數 一三戸

六、從業期間及從業者種類 五、六ノ兩月男女共ニ從事ス

七、主產地 自家用ハ各村ニ涉リ販賣用ハ下草野村大字醍醐、東野、湯田村大字内保



八、原料需用供給 地方生産ノ生茶ヲ使用ス

九、製造法 1、製造順序 生葉ヲ摘採シ一旦蒸氣ニテ蒸シ上ゲ後爐ニ移シ手先ニテ揉ミツ、乾燥シ乾燥後撰別ス

2、用具 茶爐、蒸籠等 3、工程 一人一日約三貫目ヲ製ス

十、販賣

1、仕向地及需要ノ状況 主トシテ地方ノ需要ニ供給ス

2、販賣方法 主トシテ現金取引ナリ

11、將來ノ見込 將來發達ノ見込少ナシ

12、本業トノ關係 本業ニ關係ナシ

### 十一、伊香郡

一、品目 養蠶

二、沿革 本郡ノ養蠶ハ何レノ年代ヨリ飼育スルニ至リシカハ詳ナラザルモ明治ノ初年ヨリ大ニ發達シ爾來幾多ノ變遷ヲ經テ以テ今日ニ至レルモノニシテ最モ好個ノ副業ナリ

シモノニシテ養蠶ノ發達ニ伴ヒ本事業モ亦漸次隆盛ニ赴ケリ

三、産額 一、八五九貫

四、價額 一三六、五八二圓

五、從業戸數 八六四戸

六、從業期間及從業者種類 從業期間ハ六月二十日頃ヨリ九月末日頃ニ至ル從業者ノ種類ハ農家ノ婦女子ナリ

七、主産地 伊香具村大字大音、西山ヲ主トシ其他各村ニ於テ製造ス

八、原料需用供給 原料ハ郡内ノ産繭ヲ主トシ近郡府縣ヨリ購入スルモアリ

九、製造法 1、製造順序 達摩器械ヲ以テ製造ス

2、製品ノ用途 主産地ノ製品ハ樂器用ノ原料絲ニ用ユ其他ハ織物用ニ供セラル織物用生絲ハ縮緬用ニ供ス

3、仕向地及需要ノ状況 京都、大阪、東京等ノ樂器絲ノ製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

製造家ニ歡迎セラル需要ハ益々多キヲ加フ

三、産額 七、八〇一石

四、價額 二四七、七六三圓

五、從業戸數 飼育戸數三期ヲ通シテ五、八二七戸

六、從業期間及從業者種類 五月初旬ヨリ九月末日迄ニシテ其大部分ハ飼育者ノ全家族舉テ之ニ從事ス

七、主産地 郡内一圓

八、原料需要供給 蠶種、桑葉等概ネ郡内ノモノヲ使用ス

九、販賣

1、仕向地及需要ノ状況 生産繭ハ製絲家及樂器原料製絲家ノ需要ニ供ス

2、販賣方法 多クハ隨意相對賣買ヲナス

10、將來ノ見込 前途有望ナリ

11、本業トノ關係 春夏秋蠶ノ飼育量ヲ調節シ本業トノ關係ヲ圓滿ナラシムルノ要アリ

一、品目 製絲

二、沿革 現今使用スル達摩製絲器械ハ今ヲ距ル三十年以前ヨリ次第ニ行ハル、ニ至リ

ルガ如シ織物用ノ者ハ有望ナラザルガ如シ

3、販賣方法 伊香具村ニハ生絲品評會ヲ開キ各方面ノ商人ヲ招キ入札ヲ行ヒ競賣ニ付シ或ハ任意賣買ヲナス以外ノ製絲ハ地方商人ニ賣買ス

11、將來ノ見込 樂器絲トシテハ名聲高ク頗ル有望ノ事業ナリ然レドモ織物用製絲ニアリテハ漸次減少ノ傾向アリテ有望ナラザルガ如シ

12、本業トノ關係 伊香具村大音西山ニ於ケル製絲ハ本業ヲ凌グノ盛況ナリ

一、品目 樂器絲(琴、三味線絲)

二、沿革 本事業ハ明治四十年片岡村大字東野、田川作右衛門ナルモノ製造ヲ開始セシヲ嚆矢トシ爾來増加シ現今五戸トナレリ

三、産額 琴線絲 七七貫

四、價額 琴線絲 五、八八〇圓

五、從業戸數 三味線絲 四、四〇〇圓

五、從業戸數 五戸



- 六、從業期間 年内
- 七、主產地 片岡、余吳、木之本、伊香具ノ四ヶ村トス
- 八、原料需要供給 原料絲ハ多ク伊香具村ニ於テ産出ス
- 九、製造法 原料絲ヲ多數繰合セ餅糊ヲ固メ染色ヲナス
- 十、販賣 1、東京、京都、大阪、富山、金澤等ノ各地ニ販出シ年々需要増加ノ傾向ヲ示ス
- 2、販賣方法 卸賣小賣等トス
- 十一、將來ノ見込 有望ナルガ如シ

一、品目 畜牛

二、沿革 草 畜牛ノ飼養ハ從來甚振ハズ明治三十九年頃ニハ郡内僅カニ九頭ヲ飼養スルノミナリシガ同四十年ヨリ郡農會ニ於テ貸付規程ヲ設ケ爾來毎年二十餘頭宛ヲ貸付シ種付ヲ獎勵シタル結果漸次發達シ現今稍隆盛ニ赴キタリ

- 三、産額 犢生産三〇頭、肉牛販賣一〇頭
- 四、價額 一七〇圓 仔牛牝平均一頭 三〇圓 肉牛同上 八〇圓
- 五、從業戸數 二一〇戸(畜牛現在數二三三頭)
- 六、從業期間及從業者種類 一ヶ年中從業者ハ飼育主及之レカ家族ニ於テ從事ス
- 七、主產地 片岡、永原、杉野、丹生、鹽津ノ諸村
- 八、販賣 1、仕向地及需要ノ状況 犢ハ地方ニ於テ販賣シ農家ノ飼養ニ充テ肉牛ハ地方商人ノ手ヲ經テ名古屋、東京方面へ移出セラル
- 2、販賣方法 犢ハ郡農會ニ於テ販賣斡旋ヲナシ肉牛ハ家畜市場ニテ賣買ヲナス
- 九、將來ノ見込 頗ル有望
- 十、本業トノ關係 畜牛飼養中ハ役用即チ耕作ニ用キ且厩肥ヲ肥料ニ供シ本業ヲ補フコト頗ル大ナリ

一、品目 養雞

二、沿革 近年漸ク飼養者ノ數ヲ増シタル

モ其増減ハ大体ニ於テ米價ノ高低ニ左右セラ  
ル、モノ、如シ

- 三、産額 産卵數二六八五個 (親雞二三三羽)
- 四、價額 六、四二一圓
- 五、從業戸數 四一〇戸
- 六、從業期間及從業者種類 年内ヲ通ジテ飼養ス
- 七、主產地 郡内一圓
- 八、原料ノ需要供給 飼料ハ他ハ買入ル、ガ如キコトナク自己生産ノモノヲ以テ之ニ充ツ
- 九、販賣 1、仕向地及需要ノ状況 産卵ハ地方ニ於テ販賣ス
- 2、販賣方法 多クハ小賣ナリ
- 十、將來ノ見込 四五羽ツ、位各戸ニ飼養スルヲ適當トス
- 十一、本業トノ關係 少數飼養ヲナス場合ハ本業ニ何等差支ナシ

一、品目 藁製品(繩)

二、沿革 農家ノ副業トシテ從來行ハレツ、アリ

三、産額 自家用 四九、四四八貫  
販賣用 九六、六五〇貫  
自家用 三、九五六圓  
賣賣用 七、七三二圓

- 三、産額 自家用 四九、四四八貫  
販賣用 九六、六五〇貫  
自家用 三、九五六圓  
賣賣用 七、七三二圓
- 四、價額 四、一〇六戸
- 五、從業戸數 冬季ノ農閑ヲ利用ス從業者全農家ナリ
- 六、從業期間及從業者種類
- 七、主產地 郡内ニ於テハ永原村ヲ主位トス
- 八、原料需要供給 原料ハ地方ニ於テ供給ス
- 九、製造法 從來手紬ノミナリシモ近頃器械ヲ用ユルモノヲ生シタリ
- 十、販賣 1、製品ノ用途 各種ノ結果繩及屋根葺用等ニ用ユ
- 2、仕向地及需要ノ状況 地方ヲ主トシ京津地方ニモ販出ス需用多シ
- 3、販賣方法 小賣又ハ卸賣ヲナス
- 十一、將來ノ見込 相當ノ需用アリテ有望ナルガ如シ
- 十二、本業トノ關係 農閑ヲ利用スルヲ以テ本業ニ差支ナシ

一、品目 藁製品(繩)

二、沿革 農家ノ副業トシテ從來行ハレツ、アリ



- 一、品目 藁製品(草履、草鞋)  
 二、沿革 不詳  
 三、産額 草履 三、八五〇〇足  
 草鞋 二、五〇〇〇足  
 四、價額 草履 三、三五〇〇  
 草鞋 三、三七〇〇  
 五、従業戸數 一、一四戸  
 六、製造方法 冬期農閑ノ時季ヲ以テシ従業者  
 從業者種類  
 ハ悉ク農業者ナリ  
 七、主産地 木ノ本村大字廣瀬  
 八、原料需要供給 地方生産ノモノヲ以テ之ニ  
 充ツ  
 九、販賣 地方ニ於テ販賣ス  
 1、仕向地及需  
 要ノ状況

- 他ノ各村  
 八、原料需要供給 自給  
 九、製造方法 家族ニ於テ心繩ヲ綯ヒ原料ノ調  
 達ヲナシ織上クルモノトス  
 十、販賣方法 主トシテ販賣ニ付スルハ大字雨  
 森柏原ニシテ地方商人ニ販賣ス他ノ各村ニ於  
 テ自家用ニ供スルノ外販賣スルモノ少ナシ  
 十一、將來ノ見込 有望ナリ
- 一、品目 藁製品(吹)  
 二、沿革 土倉鑛山ノ鑛石運搬用ニ供給ス  
 ル爲製作ヲ始ム  
 三、産額 販賣用 一〇、〇一〇枚  
 四、價額 三〇〇圓  
 五、従業戸數 一〇〇戸  
 六、製造方法 冬期ノ農閑時季、農業者  
 從業者種類  
 七、主産地 北富永村大字雨森  
 八、原料需要供給 自給  
 九、製造方法 家族ニ於テ心繩ヲ綯ヒ原料ノ調  
 達ヲナシ織上クルモノトス

- 十、販賣方法 土倉鑛山ニ特約販賣ヲナス  
 十一、將來ノ見込 有望
- 一、品目 藁製品(蓑)  
 二、沿革 本業ハ農家ノ副業トシテ從來ヨ  
 リ行ハシツ、アル  
 三、産額 販賣用 四一、一着  
 四、價額 二〇五圓  
 五、従業戸數 一、二〇戸  
 六、製造方法 冬期ノ農閑時季  
 從業者種類  
 七、主産地 南富永村大字高月  
 八、原料需要供給 自給  
 九、製造方法 打藁ヲ以テ手編トナス  
 十、販賣 1、製品ノ用途 農耕ノ際雨天ニ用ユ  
 2、販賣方法 販賣用ノモノハ小賣トス
- 一、品目 木炭  
 二、沿革 本業ノ起源ハ何レノ時代ヨリ始

マレルカハ不明ナルモ古代ヨリ行ハレタル事  
 業ナレバ疑フ可カラザル事實ナリトス既ニ舊  
 藩ノ時代ニ於テモ御用炭ト稱シ各藩トモ山間  
 部落ノ領地ニ命ジ製炭ヲナサシメ嚴密ナル檢  
 査ヲ行ヒ納付セシメタルガ如シ廢藩以後交通  
 ノ便開ケ世運ノ進歩ニ伴ヒ需要大ニ増加シ粗  
 製濫造ノ弊ヲ生ズルニ至レルヲ以テ産地ニ於  
 テハ夫々組合ヲ設ケ之レガ弊害ヲ矯正セント  
 シ中河内木炭改良組合金居原木炭改良社杉野  
 製炭改良組合等ノ設立ヲ見ルニ至リ大ニ品質  
 ノ改良ニ努メタルガ現今ニ於テハ中河内木炭  
 改良組合ノミ繼續シ丹生村及杉野村ニ於テハ  
 之ヲ産業組合ノ事業トナシ大部分ヲ組合ニ於  
 テ取扱フコト、ナレリ

三、産額 八八九、三八〇貫  
 四、價額 八四、〇四四圓  
 五、従業戸數 七八五戸  
 六、製造方法 冬期降雪ノ期間ヲ除キ従業スル  
 從業者種類  
 七、主産地 冬期降雪ノ期間ヲ除キ従業スル  
 從業者種類  
 八、原料需要供給 冬期降雪ノ期間ヲ除キ従業スル  
 從業者種類  
 九、製造方法 冬期降雪ノ期間ヲ除キ従業スル  
 從業者種類  
 十、販賣方法 冬期降雪ノ期間ヲ除キ従業スル  
 從業者種類  
 十一、將來ノ見込 冬期降雪ノ期間ヲ除キ従業スル  
 從業者種類



七、主産地 杉野村、丹生村、片岡村ヲ主ト

シ高時、鹽津、永原ノ一部ニ於テ製造ス

八、原料需要供給 原料ハ地方ノ山林ニ於テ伐採ス

九、製造法

1、製造順序 製炭ニ適當ナル樹齡ニ達シタル伐木ヲ約四尺位ニ切斷シ之ヲ炭竈ニ入レ燻燒シタルモノニシテ製炭法ニハ白炭及黒炭ノ二種アルモ本郡ニ於テハ白炭ノ製造ハ僅メテ稀ナリ

十、販賣

1、製品ノ用途 用途頗ル廣ク機噐、燃料ニ用ヒラル  
2、仕向地及需要ノ状況 地方及近府縣ニ搬出ス(主トシテ京都、大阪、名古屋等トス)  
3、販賣ノ方法 特約賣買又ハ地方ノ商人ニ卸賣ヲナスモノ或ハ小賣等一定セス  
11、將來ノ見込 有望ナルガ如シ  
12、本業トノ關係 本業ノ如キハ山間部ノ主業トモ見ルヘク別ニ關係ナシ

2、用具 小刀ヲ以テス

十、販賣

1、製品ノ用途 桑摘用、給桑用、其他ノ小籠トナス  
2、從業期間及從業者種類 郡内及近郡ニ販出ス  
3、販賣方法 小賣ニ付ス  
11、將來ノ見込 需要漸減ノ傾向アリ之ハ價廉ナラザルニ依ル大ニ改良ヲ要セサレバ見込ナシ  
12、本業トノ關係 本業ニハ何等關係ナシ

一、品目 萃 果

二、沿革 明治四十年南富永村大字高月淺見兵治ナルモノ始メテ栽培ヲ試ミ成績良好ナリ

三、産額 販賣用萃果 一、三〇貫 梨 一、六七貫

四、價額 同 五、八圓 同 四、九圓

五、從業戸數 同 二六戸 同 二六戸

六、從業期間及從業者種類 年内農閑ヲ利用ス(男子)

七、主産地 南富永村大字高月

一、品目 木製品(木籠)

二、沿革 本業ハ何レノ時代ヨリ製造セシモノナルヤハ不明ナルモ口碑ノ傳フル所ニ依レバ往昔白木皇子丹生村大字小原ノモノニ斯業ヲ傳授セラレシニ初マレリト同字ノ南方ニ御所ケ平ト稱スル小字アリ皇子ノ居ヲ占メラレシトコロナリト云ヒ傳フ

三、産額 販賣用 一、一一五個

四、價額 三四四圓

五、從業戸數 二八戸

六、從業期間及從業者種類 冬期間男子從業ス

七、主産地 丹生村大字小原、奥川並

八、原料需要供給 主トシテ自己ノ山林ヨリ伐採ス

九、製造法

1、製造順序 先ヅ用木ノ荒割ヲナシ之ヲ水ニ浸シ置キ更ニ薄ク削リテ組上グルモノトス原料ノ材質ハ楓若クハウリナト稱スル樹種ヲ良トス

八、販賣

1、仕向地及需要ノ状況 郡内ニ販賣ス需要多シ  
2、販賣方法 小賣、卸賣ヲナス  
九、將來ノ見込 有望ナリ  
十、本業トノ關係 本業ニハ何等影響ナシ

一、品目 製 茶

二、沿革 不詳

三、産額 一〇、三七〇貫

四、價額 二七、四七八圓

五、從業戸數 四、五六〇戸

六、從業期間及從業者種類 六月十五日ヨリ同月末迄 郡内各村ニ産スルモノ本ヲ主産地トス

八、原料需要供給 地方ニ於テ供給ス

九、製造法 生葉ヲ蒸籠ニ入レ蒸シタル后採捻乾燥シテ之ヲ製ス

十、販賣 販賣ニ付スル者ハ木之本村及高時村ニ於テ僅少ノ小賣ニ付スルモノアルノミ



- 1、製品ノ用途 大部分自用ニシテ販賣ニ付  
スルモノハ僅少ナリ
- 2、仕向地及需  
要ノ状況 地方ノ需要ニ應ズルノミ
- 3、販賣方法 小賣ニ付ス
- 11、將來ノ見込 製造ノ方法ヲ改メ良質ノモ  
ノヲ生産セバ大ニ有望ナラン
- 12、本業トノ關係 本業ニ影響ナシ

## 十二、高島郡

- 一、品 目 藁製品(機織ノ部)苳、叭、畚
- 二、沿 革 古來極メテ簡單ナル製織ヲ以テ  
生産サレツ、アリ其由來沿革等詳ナラズ
- 三、産 額 進 1,000枚 畚 1,000枚  
販賣用 進 1,000枚 叭 1,000枚
- 四、價 額 一、一三〇圓 販賣用 九〇〇圓
- 五、從業戸數 九〇戸
- 六、從業期間及  
從業者種類 毎年十二月ヨリ翌年二三月頃迄  
男女ヲ論セズ從業ス
- 七、主産地 新儀、三谷、安曇ノ各村
- 八、原料需要供給 原料ハ自家生産藁ナリ

- 九、販 賣 農蠶業並ニ敷物用トシテ其用途  
少ナカラズ其生産品ハ郡内ノ需要ニ充ツルニ  
汲々タルノ状態ナリ
- 10、將來ノ見込 農家ノ副業トシテ生産スルモ  
ノハ品質優良ニシテ加之價額低廉ナルガ故ニ  
其需要多キモ一日一人ノ工賃拾錢内外ニ過ギ  
ス副業トシテ到底生計ヲ立ツルコト困難ナル  
ノ状態ナレバ將來發達ノ見込ナキヲ以テ之レ  
ガ製造方法ニ付大イニ考慮ヲ要スルモノナリ
- 11、本業トノ關係 手編ノ部ニ同ジ

一一〇

- 一、品 目 藁製品(手編ノ部)繩、草履、草  
鞋、蓑、俵等
- 二、沿 革 藁製品ハ年中行事ノ一トシテ往  
古ヨリ農閑ノ期節ニ行ハル而シテ其製造方法  
及形狀等ニ關シテハ何等變化ナク從ツテ之レ  
ガ改良進歩ヲ見ルコトナキモ繩ニアリテハ極  
メテ簡單ナル繩縫機ノ發明アリタルモ此機ニ  
成レルモノハ品質粗惡ニシテ使用ニ堪ヘザル  
ヲ以テ今ヤ全ク之ガ使用ノ跡ヲ絶ツニ至レリ

- 三、製品價額 一、三六〇圓 内販賣用 五、六〇圓
- 四、從業戸數 三、九八七戸
- 五、從業期間及  
從業者種類 毎年十二月ヨリ翌年二、三月頃  
迄男女ヲ論ゼズ從業ス
- 六、主産地 郡内各町村
- 七、原料需要供給 原料ハ自家生産ノ藁ヲ以テ  
之ニ充ツ
- 八、販賣方法 農家ガ自家一ケ年ノ需用ニ供ス  
ル外地方商人ノ手ヲ經テ販賣ス
- 九、本業トノ關係 冬期農閑ノ期節ニ於テ作製  
スルモノナレバ本業ト相俟ツテ恰好ノ副業タ  
リ

- 一、品 目 竹製品ノ一(扇骨)
- 二、沿 革 扇骨ノ製造業ハ明治初年ノ頃安  
曇村大字西万木井保又吉ナルモノ名古屋方面  
ヨリ扇骨製造職人ヲ聘シ大イニ研究スル所ア  
リシモ技術意ノ如クナラザリシヲ以テ遂ニ中  
途ニ於テ廢業ノ止ムナキニ至リシガ其甥井保  
壽太郎ナルモノ之レヲ遺憾トシ再興ヲ圖リテ

- 三、産 額 一、五、〇〇〇本 (農家ノ副業トシテ製  
造スルモノノ産額)
- 四、價 額 三、六五〇圓 (同上價額)
- 五、從業戸數 一〇〇戸
- 六、從業期間及  
從業者種類 冬期間多ク農家男子ノ手ニ成ル  
而シテ之等ハ多ク製造業者ニ就キ相當見習ノ  
タメ數年間奉公セシ年明者ナリ
- 七、主産地 安曇、新儀、饗庭、劔熊ノ諸村
- 八、原料需要供給 竹材富有ニシテ原料ノ需用  
充分ナリ
- 九、製造法

- 1、製造順序 扇子ニ適宜ノ寸法ニ切りタル  
竹ヲ初二分位ノ厚サニ割り剃キ小刀ヲ以テ  
恰當ノモノニ削リ上ゲタル上鮫皮ヲ以テ磨  
キ光澤ヲ充分ナラシメ而シテ要穴ヲ明ク完  
ク乾燥ヲ圖ル
- 2、用 具 竹切鋸、舞錐、平鉋、削臺、

一一一



鮫皮等

3、工程 一人一日仕上一式百本

十、販賣

1、用途 扇子用

2、仕向地及需要ノ状況 扇骨ハ多ク京都ニ輸送シ扇子トシテ各地ニ輸出スルモ郡内農家ノ手ニ成

レルモノハ仲買人ノ手ニ販賣ス、

需要ノ途ハ年々其範圍ヲ擴張サレツ、アル

モ時ニ好不況ヲ免レズサレド目下ノ處好況

ノ域ニアリ

3、販賣方法 地方仲買人ノ注文ニヨリ製造

シ代金ハ即時現品引換トス

十一、將來ノ見込

目下歐洲戰亂ニ際シ製産品

ハ多ク内地ノ需要トシテ製産スルモ今後益々

海外ニ輸出スルニ至ラバ將來一層好況ヲ呈ス

ルナラン而シテ内地ニアリテハ名古屋産ニ比

シ体裁稍劣ルノ感アルヲ以テ此點大ニ改良ヲ

十二、本業トノ關係

本業ハ藁製品ト同ジク多ク農閑期ヲ利用シ製造スルモノニシテ農家ノ

副業トシテ恰好ノ事業トス

十三、其他參考事項 扇骨ノ製造ハ大部分專業

ニシテ農家ノ副業トシテ從事セルモノハ約其

一割ニ過ギズ

一、品目

竹製品ノ二(箕、蛇籠、物入類)

二、沿革 本郡ハ竹材豊富ニシテ之レガ加

工用材ノ産額(大正四年末調)一萬七千束此價

額壹萬五千圓ニ達シ往古ヨリ種々ノ製産品ア

リシト雖ドモ其由來詳カナラズサレド之レガ

需要ノ途ハ漸次多キヲ加フルニ從ヒ其製品ノ

種類又著シク増加シ今ヤ種々ノ細工品ヲ製産

スルニ至レリ

三、製品價額

販賣用 一、五〇〇圓

四、從業戶數

一八戶

從業期間及從業者種類 從業期間ハ多ク農繁期ノ外年中通ジテ生産サレツ、アリテ從業者ハ農ヲ以テ主トス

六、主産地

箕、安曇。蛇籠、廣瀬。漁具、今津、饗庭、安曇。物入類、安曇ノ諸村

テ製造ヲ開始シ今日ニ至リタルモノニシテ開業以來日尙淺キモ今ヤ製造戶數八戶ヲ算スルニ至レリ

三、産額

販賣用八、五〇四、五〇〇個

四、價額

一三、四〇〇圓

五、從業戶數

八戶

六、從業期間及從業者種類

農繁期ノ外年中通ジテ從業ス、(農家ノ男女)

七、主産地

朽木、三谷ノ各村

八、原料需要供給

之レガ原料タル用材ハ種類ノ如何ヲ論ゼス製造シ得ルヲ以テ原料ハ無盡ナリ

九、製造法

1、製造順序 動力ハ水車ヲ利用シ機械ヲ運轉シテ其作用ニヨリ一定ノ形状ヲ作ル

2、用具

丸鋸、丸錐、位上器、臍取鉋

十、販賣

1、用途 絲卷用

2、仕向地及需要ノ状況

京都方面ニ輸出シ需要多シ

3、販賣方法

三谷ニアリテハ個人直接販賣

七、原料需要供給

豊カナリ

八、製造法

1、製造順序 竹材ハ使用上堅牢ヲ期スル爲メ多ク三年以上ノモノヲ八、九月頃ニ伐採スルモノトス而シテ之レガ製産品ノ種類多クシテ從ツテ其形状一樣ナラズ

2、用具 鋸、小刀ノ類

3、工程 一樣ナラザルヲ以テ之ヲ省略ス

九、販賣

1、仕向地及需要ノ状況 仕向地ハ多ク縣下湖東地方ヲ主トス需要ノ途ハ漸次増加シツ、アルモ其産額未タ僅少ニシテ廣ク需要ニ應ズル能ハザル状態ナリ

2、販賣方法 行商其ノ大部分ヲ占メ他ハ注文ニ應ジ代金ハ現品引換トス

一、品目

木製品ノ一(木管)ポツピン

二、沿革 本業ハ今ヲ去ル五年以前朽木村大字市場木村銀藏ナルモノ福井縣人ト共同シ



ナルモ朽木ニアリテハ大溝町方面ニ出荷シ仲買人ノ手ヲ經テ販賣ス何レモ代金ハ現品ト引換即時拂トス

十一、將來ノ見込 原料富豐ナルヲ以テ今後技術上進歩スルニ至ラバ將來有望ノ事業タリ

十二、本業トノ關係 主產地ノ農家ハ多ク林業ヲ營ミ生計ヲ立ツルノ状態ナレバ農家ノ副業トシテ實ニ好適ノ職業タリ

- 一、品目 木製品ノ二(下駄)
- 二、沿革 由來詳カナラズ
- 三、産額 販賣用一四〇、〇〇〇足
- 四、價額 一、三二六圓
- 五、從業戸數 五〇戸
- 六、從業期間及從業者種類 年中農事ノ傍男子ノ手ニテ製造セラル
- 七、主產地 朽木村
- 八、原料需要供給 原料ハ多ク杉、栗材ヲ主トシテ材料豊カナリ
- 九、製造法

二二四

- 1、製造順序 厚サ二寸巾三寸位ノ材積ヲ作リ齒ハ凸凹ニ削ル
- 2、用具 鋸、鉋、小刀、錐
- 3、工程 一日一人二十足乃至三十足
- 十、販賣 履物用
- 1、用途 郡内需要
- 2、仕向地及需要ノ状況 行商ノモノト店頭ニ陳列シ販賣スルモノトアリ
- 3、販賣方法 行商ノモノト店頭ニ陳列シ販賣スルモノトアリ
- 十一、將來ノ見込 製造方法ハ簡單ニシテ價格低廉ナレバ農家經濟上其需要ニ適シ將來有望ナリ

- 一、品目 三 楮(製紙原料)
- 二、沿革 明治四十年頃福井縣遠敷郡熊川地方ニ栽培セラル、モノヲ移入シ來レルヲ始メトシ以來盛ニ培養サル、ニ至レリ
- 三、産額 販賣用 四、三七五貫
- 四、價額 二四、〇〇〇圓
- 五、從業戸數 二〇戸

- 六、從業期間及從業者種類 冬期間男女ノ手ニテ精選ス
- 七、主產地 三谷村
- 八、製造法
- 1、製造順序 樹皮ヲ剝採スルニ容易ナラシムル爲メ蒸桶ヲ以テ蒸シ而シテ粗皮ハ之レヲ除キタル上原料ハ水ニヨリテ白色ヲ呈スル程度迄精製ス
- 2、用具 大釜、蒸桶、皮剝器具
- 九、販賣
- 1、用途 製紙原料トス
- 2、仕向地及需要ノ状況 仕向地ハ大阪府、静岡、岐阜縣ヲ主トシテ需要盛ナリ
- 3、販賣方法 共同販賣トシ代金ハ荷着ノ上支拂ヲ受ク
- 十、將來ノ見込 三楮ハヨク地味ニ適シ他作物ニ比シ收益多キヲ以テ將來有望ナリ
- 十一、本業トノ關係 何等關係スルコトナシ

- 一、品目 石製品(硯)
- 二、沿革 硯ハ今ヲ去ル凡ソ百六十年前本

二二五

- 郡青柳村徳右衛門ナル者初メテ山石ヲ以テ製造シタルニ石面ニ虎皮ノ斑點現ハレ爲メニ虎斑石ノ名アリ該石ハ硯材トシテ他ニ優越セルヲ以テ其後安曇村大字五番領水尾村大字鴨等ニテ盛ニ斯業ヲ開始スルニ至リ又之レガ石材採掘ニ苦心セシ結果郡内數ヶ所ニ其產地ヲ見出シ(殊ニ大溝町阿彌陀山ハ廣ク世ニ知ラル、所ナリ)漸次好域ニ進ミシガ明治十七年頃ヨリ近畿地方ニテ盛ニ産出スルニ至リタルヲ以テ一時大イニ其販路ヲ失ヒシガ元來當業者克ク困難ニ堪ヘ益々良品ヲ産出シ漸ク其積勢ヲ挽回スルニ至レリ
- 三、産額 一七八、〇〇〇個
  - 四、價額 八、七八三圓
  - 五、從業戸數 六六戸
  - 六、從業期間及從業者種類 從業者ハ多ク傍ラ農ヲ營ミ農繁期ノ外殆ンド專業ノ如ク從業ス
  - 七、主產地 安曇、青柳、饗庭ノ諸村
  - 八、原料需要供給 原料ハ虎斑石、玄晶石、本中ノ三種アリテ虎斑石ハ尤モ優良ナルモ近年



原料漸ク缺乏ノ爲メ自然高價ニ取引セラル、ヲ以テ目下産地候補ノ發見ニ腐心シツ、アリ

ヲ兼テ次回ノ注文取りヲナス他ハ出荷ノ後代金ノ授受ヲナス

九、製造法  
1、製造順序 採取セル石材ヲ大小圓角等適宜ノ寸法ニ切り最初之レヲ荒キ面上ノ砥石ニテ研ギ然ル後鑿ヲ以テ硯池及淵ヲ彫刻シ大体ノ彫刻ヲ終ルヤ面上ノ緻密ナル砥石ニテ充分之ヲ磨キ蠟ヲ引布シテ光澤ヲ出シ之レニ美術的加工ヲ施コス

2、用具 砥石、鑿、鋸(石切用ノモノ) 金槌類

3、工程 石材ノ質ニヨリ一定セザルモ普通品ニアリテハ男一人一日ノ工程(仕上一式)五個

十、販賣

1、仕向地及需要ノ状況 東京、大阪、京都、愛知、岐阜、石川、富山、福井、新潟ノ各府縣トシ大阪ハ其大部分ヲ占ム  
2、販賣方法 販賣方法ハ多ク書面注文ナリト雖モ大阪ニ在テハ隔月位ニ前回分ノ集金

十一、將來ノ見込 以上ニモ記セシ如ク石材品ノ缺乏ハ單ニ當業者ノ悲痛ノミニ止マラズ本郡ノ有名ナル生産品ノ前途誠ニ憂慮ニ堪ヘザレバ之レガ候補地トシテ探見ノ結果饗庭原野ニテ漸ク其通脈ヲ發見セルニヨリ之レガ試掘方當業者ヨリ陸軍省へ出願中ニ屬ス尙廢物ヲ利用スル爲メ目下大阪市ニ製造所ヲ設ケ從來ヨリ全部廢物トナル石材ノ破片、粉末ヲ利用シ盛ニ材料ヲ製造スルノ結果將來有望ナレドモ之等ハ農家ノ副業トシテハ到底不可能事トス

十二、本業トノ關係 硯製造業者ハ多ク農工ヲ兼業トシ就中其割合ハ農三分工七分ノ域ニアリテ從ツテ農ヲ主業トスルモノナキモ本業トノ關係圓滿ナリ

一、品目 金屬製品(剃刀)

二、沿革 本郡ニ於ケル主産地ハ饗庭村大上荒砥石ヨリ漸次盤面ノ密ナル砥石ニ掛ケ之レニ磨キヲ施ス

2、用具 鞆、金槌、砥石、金削器

3、工程 一日一人、仕上共十挺

十、販賣  
1、用途 髮剃リ用トシテ用フ  
2、仕向地及需要ノ状況 本郡生産品ハ多ク關東地方ニ販出シ之レガ需要ノ途極メテ廣ク好況ヲ呈シツ、アリ

3、販賣方法 主産地ニハ販賣取次ヲナス者アリテ地方生産ノモノヲ集メ十挺ヲ一括シ之レヲ適宜ノ箱ニ入レ繩ニテ荷造セシ上輸送ス而シテ之レガ代金ハ月ニ一、二回位出張シ次回ノ注文ヲ兼テ請取ル外注文ハ書面ヲ以テスルコト多シ

十一、將來ノ見込 斯業ハ其年ノ需要ノ如何ニヨリ多少好不況ヲ免レザルヲ以テ當業者ハ一時非常ナル困憊状態ニ陥ル事アルモ近時需要ノ途漸次擴大シ將來有望ノ域ニアリ  
十二、本業トノ關係 職工ハ多ク十二三歳ヨリ

字熊野本旭トス其起原今ヲ去ル凡ソ百二十年以前桑原善兵衛ナルモノノ京都ノ打物師ニ就キ其技ヲ學ビ郷ニ歸リテ之ガ製造業ヲ起シタルニ始マル其後年ヲ經ルニ從ヒ同業者漸次増加シ今ヤ縣下ノ主産地トシテ世ニ知ラル、ニ至レリ

三、産額 六〇、〇〇〇挺

四、價額 四、二〇〇圓

五、從業戸數 五〇戸

六、從業期間及從業者種類 年中從業ス、大抵十二三歳ヨリ鍛冶職ノ見習ヲナシ年期セシモノガ農事ノ傍ヲ營ムモノトス

七、主産地 饗庭村

八、原料需要供給 原料ハ從來古鐵ヲ鍛練シテ使用セシガ近來洋鐵ヲ用フルニ至リ多クハ瑞西産ノモノヲ用フ近時歐洲戰亂勃發以來原料ハ非常ナル暴騰ヲ來セリ

九、製造法

1、製造順序 原料タル鐵棒ヲ適宜(剃刀形)ニ引キ延シ金削器ニテ剃刀ニ製シ上ゲタル



十六七歳ノ農家ノ男子ヲ普通三年但見習トシテ使役シ見習職工ハ其年明ケト共ニ禮奉公ト稱シ一ケ年主人ノ下ニ義務奉公ヲナス慣例アリサレバ少クモ四、五ケ年ノ年月ヲ要シ農家經濟上一時苦痛ヲ免レザルモ年明ケト共ニ其收益多ク大体ニ於テ圓滿ナリ

- 一、品目 畜産業ノ一(牛)
- 二、沿革 詳ナラズ
- 三、飼育及生産額 成牛 九六〇頭  
仔牛 四七頭
- 四、價 格 成牛 一〇、〇九〇圓  
仔牛 一、二〇〇圓
- 五、從業戸數 九三三戸
- 六、從業期間及從業者種類 農家ノ手ニテ年中通ジテ飼養ス
- 七、主産地 朽木村
- 八、原料需要供給 仔牛ハ多ク地方商人ノ手ニヨリ京都、兵庫方面ヨリ購入シ來リタルモノヲ大低三、四ケ年飼育セシ後更ニ賣買交換ヲナス而シテ近時牛肉ノ需要多キニ伴ヒ屠殺ヲ行フ結果本郡ニテ年々三十頭乃至四十頭生産アルモ斯カル少數ノモノハ飼育者ノ需要ヲ充

タス能ハサルヲ以テ年々之レヲ他地方ニ求メツ、アリ

- 九、販賣 勞役ニ使用スル外肉食ノ用ニ供セラル
- 1、用途 勞役ニ使用スル外肉食ノ用ニ供セラル
- 2、仕向地及需要ノ状況 牛ハ一部若狹京都地方へ移出スル外牝ハ伊香郡木之本及神崎郡八日市市場ニ賣却スルモノ多シ
- 3、賣買及交換方法 主ニ隨意賣買交換ヲナスト雖モ主産地ニハ畜産組合ノ設ケアリテ之レガ取引ニ就テハ昔日ノ如ク商人ノ爲メニソノ利益ヲ壟斷サル、事ナク其品質ニヨリ相當ノ價額ヲ以テ安全ニ取引セラレツ、アリ而シテ賣買ニアリテハ始メ手付金ト稱シ大低價額ノ十分ノ三乃至五ニ相當スル代金ノ支拂ヲナシ皆金ハ現品引替トス
- 十、將來ノ見込 近時牛耕ノ普及ト厩肥ノ必要ヲ感知セルト且牛肉ノ需要多キニ伴ヒ年々増加ノ傾向アリサレド農家ノ細民ニアリテハ之レガ資金ノ調達困難ナレバ獎勵普及ノ策ト

シテ大正三年ヨリ郡農會事業トシテ年々十頭乃至十五頭ノ仔牛ヲ貸付シ又一面品種ノ改良ヲ圖ル爲メ大正四年ニ生産改良獎勵規則ヲ設ケ仔牛品評會ヲ獎勵シツ、アリ其結果將來飼育數ノ増加ト共ニ漸次品種ノ改良ヲ見ルニ至ルベシ

十一、本業トノ關係 本業トノ關係頗ル圓滑ナリ由來本郡ハ比較的濕田多クシテ牛耕ノ業振ハザリシガ耕地整理等ノ獎勵ニヨリ牛耕ノ便ヲ得ルニ至ラバ其利スル所大ナリト信ズ

- 一、品目 畜産業ノ二(馬)
- 二、沿革 詳ナラズ
- 三、産額 牝 三頭 生産額數 四頭  
牡 三頭 一五、〇〇〇圓
- 四、價額 一三〇圓
- 五、從業戸數 三七八戸
- 六、從業期間 年中飼育ス
- 七、主産地並肥育地 廣瀬、櫻庭、安曇、高島村、肥育ハ上記ノ町村ノ外川上、今津、大津トス

八、原料需要供給 農家ニテ飼育スルモノハ多ク青森、巖手、福島、福井、石川、岐阜縣地方ヨリ商人ノ手ヲ經テ移入シツ、アルモ本郡ハ交通不便ナル爲メ相當ノ手數ヲ要シ供給意ノ如クナラサルノ感アリ

- 九、販賣 勞役乘馬トシテ使用ス
- 1、用途 勞役乘馬トシテ使用ス
- 2、仕向地及需要ノ状況 農家ニテ三年乃至五六年使役セルモノヲ更ニ商人ノ手ヲ經テ兵庫、大阪奈良、京都方面ニ賣却シ次ニ購入スルニ際シテハ大抵拾圓乃至參拾圓位ノ追金ヲナスヲ普通トス
- 3、販賣方法 販賣方法ハ牛ト異ナル點ナキモ從來ヨリ産馬組合ノ設立アリテ安全ニ行ハレツ、アリ
- 十、本業トノ關係 馬ハ牛ニ比シ農家經濟ノ關係ヨリ増加ノ見込ナキ状態ニアリ之レ牛ニ比シ價額ノ高價ナル割合ニ需要ノ途狭ナルト且之レガ飼育ノ方法稍困難ナル點アルニヨルサレド一面之レガ獎勵ノ爲メ本郡ニ於テハ産



馬組合ナルモノ、設ケアリ年々補助金ヲ交付シテ之レガ生産ヲ計リツ、アリ

- 一、品目 養禽ノ一(鶏)
- 二、沿革 本郡ニ於ケル養鶏ノ事業ハ從來重要視セラレサリシ爲メ之レガ飼育ノ數極メテ僅少ナリシガ明治三十年ノ頃「名古屋コーチン」ヲ盛ニ飼育シ爾來引續キ幾多ノ種類ヲ移入シ近時其需要多キヲ加フルト其ニ益々發達ヲ見ルニ至レリ
- 三、産額 成禽 一〇七〇羽 産卵 一〇一五、八〇〇個  
雛 一六三三羽
- 四、價額 成禽 八〇九圓 産卵 二五、四八圓  
雛 三八五八圓
- 五、從業戸數 三、三八一戸
- 六、從業期間 年中通ジテ飼育ス
- 七、主産地 川上、新儀、饗庭、安曇、今津ヲ主トシ其他ノ町村ニ於テモ産ス
- 八、原料需要供給 産卵ハ毎年七、八月及十二月ヨリ一月、二月ノ頃ハ氣候ノ關係ニヨリ其數著シク減少スルヲ以テ供給稍乏シキ感アルモ難ハ年々春秋期ニ於テ就巢盛ニ孵化セシメ

- 九、孵化法
  - 1、順序 成禽ノ就巢ヲ待テ適宜ノ箱ニ葉ヲ入レ其上ニ大抵十五六乃至二十個ノ卵ヲ入レテ孵化セシム
  - 2、用具 從來ヨリ孵卵器ヲ以テ孵卵セラルモ其成績良好ナラズ爲メニ適宜ノ箱ニ之レヲ就巢セシム
  - 3、工程 一巢大抵十五六羽ヲ孵化ス
- 十、販賣
  - 1、仕向地及需要ノ状況 鶏及鶏卵ハ本郡ノ需要ニ充ツルノ外福井縣ニ販賣ス
  - 2、販賣方法 地方仲買人ニ直接取引ヲナス
  - 11、將來ノ見込 養鶏ハ其種類極メテ多ク而シテ其目的ハ肉食用ノモノト採用用ノモノトニ別レ今ヤ双方共盛ニ養育サレツ、アルモ之レガ品種ヲ改良陶汰シ以テ其收益ヲ増サシムルハ經濟上必要事ニ屬ス
  - 12、本業トノ關係 農家ニアリテハ之レガ資料ハ自然自家生産品ヲ以テ容易ニ飼育スル事

ヲ得ベク誠ニ好適ノ副業タリ

- 一、品目 養禽ノ二(鶯)
- 二、沿革 本郡ニ於ケル由來詳カナラズ從ツテ沿革ヲ知り難シ
- 三、産額 成禽 一〇〇羽 雛 六七羽 産卵 六五〇個
- 四、價額 同 八三圓 同 一八〇圓 同 一六〇圓
- 五、從業戸數 四三戸
- 六、從業期間及從業者種類 多クハ湖邊ノ漁業ヲモ兼業スル農家ノ手ニテ飼育セラル
- 七、主産地 新儀、饗庭、本庄ノ各村
- 八、原料需要供給 郡内沿湖ノ地ヲ除ク外飼育セザルヲ以テ之レガ需要供給概シテ不便ニシテ殊ニ毎年十月頃ヨリ翌年二、三月頃ノ期間ヲ除ク外成禽ノ飼育ハ不經濟ナルニヨリ屠殺スルヲ以テ需要困難ナリ
- 九、孵化法 鶯ハ卵ヲ孵化スル事不能從テ就巢セザルニヨリ鶏ヲ以テ之レヲ孵化セシム而シテ其方法ハ鶏ト異ナルコトナシ
- 十、販賣

- 1、仕向地及需要ノ状況 本郡ニテ需要ニ應ズル外他ニ輸出スルコトナシ
- 2、販賣方法 其年孵化シタルモノヲ大抵四五ヶ月間飼育シテ地方仲買人ニ販賣シ更ニ仲買人ヨリ需要者ニ賣却ス
- 11、將來ノ見込 鶯ハ多ク魚肉ヲ好ムヲ以テ沿湖ノ町村ヲ除ク外飼育困難ナルノミナラズ之レガ肉ノ需要少ナキ爲メ一般農家ノ副業トシテ適當ナラザレバ將來發達ノ見込ナシ
- 一、品目 養 蠶(繭)
- 二、沿革 本郡ニ於ケル養蠶ノ業ハ古クヨリ行ハレツ、アリテ其由來ヲ知ルニ由ナシ從來技術拙劣ニシテ振ハザリシモ近時各種獎勵ノ結果大ニ面目ヲ改ムルニ至レリ
- 三、産額 春蠶 一、三六石 夏蠶 一、七五石  
秋蠶 五〇石 計 三、九七石
- 四、價額 春蠶 四、三三圓 夏蠶 五、二八圓  
秋蠶 一、八六九圓 計 一一、二〇六圓
- 五、從業戸數 三、〇〇〇戸
- 六、從業期間及從業者種類 春蠶ハ大抵毎年五月上旬ヨリ六



月中旬迄夏蠶ハ七月上旬ヨリ七月下旬迄秋蠶ハ八月十日頃ヨリ十月中旬迄

七、主産地 本庄、川上ヲ主産地トシ各村ニ亘ル

八、原料需要供給 蠶種ハ從業東淺井郡方面ヨリ購入ヲ仰ギシガ近時本郡内ニ於テ生産スルニ至ル桑葉ハ年々遂フテ盛ニ栽培セラレ供給充分ナリ

九、販賣

1、仕向地及需

本郡ノ仕向地ハ多ク長濱市場ニシテ近來生絲ノ騰貴ト共ニ賣行良好ナリ

2、販賣方法

從來ヨリ個人取引ナルヲ以テ四五仲買人ノ爲メニ其利益ヲ壟斷サル、ノ状態ナリシヲ以テ大正元年ヨリ郡農會ノ斡旋ニヨリ共同販賣ヲナシ繭ノ相場ニ關シテハ長濱市場ヨリノ通知ヲ受ケ之レヲ郡内ニ周知シ以テ養蠶家ノ便ヲ計リツ、アレバ至極安全ニ販賣サル、ニ至レリ

十、將來ノ見込 年々技術ノ進歩ト共ニ飼育上失敗ノ憂少ナク加フルニ年々相當ノ價額ヲ以

テ取引サル、爲メニ飼育者漸次増加ノ傾向ヲ示シツ、アリ

十一、本業トノ關係

春蠶ノ時期ハ稻田ノ插秧期ニシテ本業ニ不尠支障アリト雖ドモ農家ハ一層奮勵シテ業務ニ當ルノ結果之レガ爲メ耕作地ヲ減少スルコトナク又夏秋蠶ノ時期ニアリテハ時恰モ農閑期ニシテ農家ハ漫然日時ヲ空費スルノ時期ナレバ副業トシテ最モ適セリ

一、品目

製絲(生絲)

二、沿革

製絲ノ業モ亦古クヨリ農家ノ副業トシテ至ル所ニ行ハレツ、アリ

三、産額

一九七貫

四、價額

七、一六四圓

五、從業戶數

一三戸

六、從業期間及從業者種類

春夏秋蠶ノ上簇期後約一ヶ月

七、主産地

三谷、新儀ノ両村ヲ主トス

八、原料需要供給

原料ハ地方ノ二等繭、玉、屑繭ヲ以テ生産ス

九、製造法

達摩器械ヲ以テ繰絲ス

十、販賣

1、仕向地及需

長濱地方へ縮緬原料トシテ仕向クルモノヲ主トシテ之レガ取引方法ハ一様ナラザルモ需要好況ナリ

2、販賣方法

農家ニアリテハ地方商人ニ現金取引ヲナス

十一、本業トノ關係

製絲期ハ春蠶ニアリテハ時恰モ插秧期ニ當リ又夏蠶ニアリテハ除草時期ト衝突シ秋蠶ノ時期ニハ早稻ノ刈取期ニ入ルヲ以テ農家婦女子ノ多忙ナル時ナレバ農ヲ主トスルモノニハ不適當ノ感アリ

一、品目

園藝業(果樹)

二、沿革

果實ハ其種類極メテ多クシテ柿、栗、梨、桃ノ如キハ從來郡内至ル所ニ散在シ自然相當ノ收益ヲ收メツ、アリシガ近時其需用益々多キヲ加フルト共ニ之レガ植樹漸次盛トナリ殊ニ明治三十七年本庄村北船木ニ於テ細井民藏ナルモノ大規模ノ果樹園ヲ設定シ種

三、産額、價額及主産地

々ノ果樹ヲ蒐集栽培セル以來所々ニ園藝ノ業起リタルモ未ダ見ルベキモノナシ

梅

三六〇石、一八四圓、新儀、水尾

桃

四〇七貫、八四圓、新儀、百瀬、水尾、本庄

巴丹杏

三六〇圓、本庄、廣瀬

李

五二石、二八五圓、高島、新儀

梨

日本梨七二四貫、二五〇圓、廣瀬、本庄、新儀  
西洋梨七四貫、二六圓、青柳

柿

生柿 二二、八六貫、三三六圓、廣瀬、高島、朽木  
三谷、鯉熊

苹果

四九七貫、二九圓、本庄

枇杷

二七〇貫、八二九圓、新儀、廣瀬

葡萄

二六九貫、七五六圓、本庄、新儀

栗

二八五石、二二七圓、西庄、高島

密柑

二四貫、四圓、青柳

夏橙

一六四貫、四九圓、安曇、本庄、青柳

其他柑橘類

一〇三貫、二五圓、水尾、新儀

從業期間及從業者種類

年中通シテ從業スト雖トモ冬期間ハ氣候ノ關係上中止ス農ヲ主トスル男子ヲ



多キトス

五、樹苗需要供給 樹苗ハ本郡ニ於テ年々接木ノ方法ヲ以テ生産ヲ圖リツ、アルモ未ダ充分ナラズ尙主産地ヨリ購入シツ、アルノ状態ナリ

六、販賣

1、仕向地及需要ノ状況 多ク地方商人ノ手ニテ郡内ノ需要ニ充タサレツ、アリ

2、販賣方法 販賣ノ方法ハ大抵立木ニ成レルマ、見積價額ヲ以テ賣却スルノ慣例アリ

又一面農家ヨリ直接果實ノ集散地(今津)方面ノ商人ニ販賣ス

七、將來ノ見込

目下本郡ニ於ケル園藝業ハ大ナル發展ヲ見ズト雖ドモ近時農家ノ副業トシテ重要視サル、ニ至リ樹苗ノ如キ漸次其需要多ク爲メニ年々本縣技術員ノ出張ヲ仰ギ果樹ノ接木講習ヲ開催スル等之レガ獎勵ノ結果將來著シキ發展ヲ見ルナラン

八、本業トノ關係

果樹植栽等ハ他ノ作物ニ比シ極メテ容易ナル事業ニシテ且ツ之レガ手入

二二四

(剪刺)等ノ期節ニ於テモ本業ト何等衝突スルコトナク農家ノ副業トシテハ誠ニ好適ノ事業タリ

一、品目 園藝加工品(干柿)

二、沿革 沿革ナラズ

三、産額 三、八九一貫

四、價額 一、五五六圓

五、從業戸數 六二〇戸

六、從業期間 毎年十月下旬ヨリ十二月頃ノ間ニ於テ農家婦女子ノ手ニナル

七、主産地 百瀬、今津、朽木、三谷、劍熊ノ各村

八、製造法 生柿ノ皮ヲ剥ギ取リテ竹串ニ差シ連ネ普通焚火ノ上ニ釣シ乾ク乾燥ヲ圖ル而シテ一串普通十個差シトシ十串ヲ以テ一束ニ編ムモノトス

九、販賣方法 郡内ノ需要ニ充ツルモノナリ

十、將來ノ見込 串柿ハ年々其需要増加シ將來有望ナリ

一、品目 木綿織ノ一(木綿縮)

二、沿革 本郡ニ於ケル縮ハ古ヨリ春冬ノ頃農家ノ副業トシテ極メテ粗雑ナルモノヲ製織シツ、アリシガ明治維新以來漸次其歩ヲ進メ明治十二、三年ノ頃綿絲ノ紺地ニ絹絲ヲ交ヘ緯絲ノ片撚ヲ兩撚ニ改メ經絲ヲ浮上ゲ名ヲ浮織ト稱シテ大イニ世上ノ喝采ヲ博セシガ忽チ粗製濫造ノ弊ヲ生ジ明治十七八年ノ頃高島縮ノ名聲ハ頓ニ地ニ墜チタリ明治十八年本縣織物業取締規則發布ニ依リ同十九年三月本郡一圓ヲ區域トシテ織物業同業組合ヲ設立シ從來ノ手機ヲ「バツタン」機ニ改メ從來自家ニテ紡ギタル原絲ハ之レヲ紡績會社ヨリ購入スルニ至レリ後重要物産同業組合法ノ發布セラレ、ヤ其組織ヲ改メ尺巾等ヲ一定シ製品ノ検査ヲ嚴ニシタル結果粗製濫造ハ其跡ヲ斷チ漸々江湖ノ信用ヲ挽回スルヲ得タリ下ツテ明治三十四年度ヨリ縣費ノ補助ヲ受ケ模範工場ヲ設置シ技術者ヲ招聘シテ各種ノ研究ヲ行フト共ニ傍ラ講習會ヲ開キテ染料機織ニ要スル智識ノ

普及ヲ圖リ又大正元年ヨリ之レガ原料撚絲ノ整一ヲ圖ル目的ヲ以テ組合ニ於テ撚絲工場ヲ設立シ其進歩ヲ促シタル結果今ヤ從來ノ稿、無地物、絲入縮ニ止マラズ種々嶄新ナル製品ヲ出シ就中片撚縮ノ「シャツ」地クレーブノ如キ普ク世ノ需要ニ適シ今ヤ織物ノ好況ト共ニ農家婦女子ノ好適ノ副業トナルニ至レリ

三、産額 四四、八二反(チ含ム) 賃織業

四、價額 二六、二八圓(同)

五、從業期間及從業者種類 主トシテ春冬ノ候ニ製織ス、織元ノ工場ニアツテハ十五六歳以上二十四五歳迄ノ婦女子ヲ使役シ農家ニアツテハ一般婦女子ニ從事ス

六、主産地 安曇、新儀、水尾、櫻庭、本庄青柳、大溝ノ各町村

七、原料需要供給 原料絲ハ大阪方面ヨリ仕込ミ來リ織元ノ手ヨリ織子ニ供給スルモノナリ

八、製造法 經絲ハ木綿絲ノ十六手緯絲ハ十四手ヲ用ヒ「バツタン」機ヲ以テ製織ス工程ハ一人一日普通十二丈

二二五



九、販 賣

1、仕向地及需  
要ノ狀況 製品ハ機業家直接ニ又ハ仲買  
人ノ手ヲ經テ京阪地方並若狹、越前ニ販出  
シ需要ノ途極メテ廣ク好況ヲ呈シツ、アル  
モ近時名古屋方面ヨリ盛ニ産出スルニ至リ  
販路ヲ壓迫サレツ、アリ

2、販賣方法 毎月一、二回仕送品ノ集金ヲ  
兼テ注文ヲ聞キ代金ハ品物送付後十五日延  
位ニシテ約八分ヲ請取年末ニ總勘定ヲナス  
ヲ常トス又中ニハ京阪地方ヨリ生産地ニ入  
込ミ賣買取引ヲナスモノアリ仕送リノ製品  
ハ小巾ハ六十疋中巾ハ四十疋大巾ハ三十疋  
ヲ梱トナシ紙ニテ中包ミヲ爲シタル上更ニ  
蕙巻トシ繩ニテ結束シ尤モ完全ニ荷造シタ  
ル上送付スルモノナリ

十、將來ノ見込

本郡ニ於ケル木綿縮ハ今ヤ幾  
多ノ經驗ニヨリ其名聲ヲ博シ需要ノ途ヲ擴張  
シツ、アレバ一層品質ノ改善ヲ圖リ製品ノ取  
縮ヲ嚴ニシ其ノ信用ニ重キヲ置カバ將來有望  
ノ域ニ達スルハ信ジテ疑ハズ

九、販 賣

1、用 途

シャツ地及ズボン下ニ用フ

2、仕向地及需  
要ノ狀況 仕向地ハ大阪、京都ニシテ更  
ニ京阪地方ノ商人ノ手ヲ經テ南洋濠洲地方  
ニ輸出セラル

十、販賣方法

一ニ同ジ

十一、將來ノ見込

クレープ地ハ今ヤ内外共ニ  
非常ナル好評ヲ以テ迎ヘラレツ、アルモ他府  
縣ニ於テ本品ノ製織ニ從事スルモノ續出シ爲  
メニ自然競争激烈ヲ極メ動モスレバ他ニ壓倒  
セラレントスルノ状態ナルモ之レガ輸出ノ途  
極メテ廣大ナレバ將來有望ナリ

十二、本業トノ關係

一ニ同ジ

十三、備 考

クレープ地ノ産額、價額、從  
業戸數ハ木綿縮第一表ニ之レヲ合算セリ

一、品 目

木綿織ノ三(タイヤ真地)  
二、沿 草 本品ハ明治四十三年六月頃安曇  
村大字西万木水口藤吉ナルモノ本郡ノ機業家  
長宗政吉ノ意ヲ繼ギテ製織ニ從事シタルヲ嚆

十一、本業トノ關係

近時織物ノ好況ニ從ヒ主  
産地ニアリテハ農ニ比シ其收益優ルヲ以テ農  
事ハ稍衰頽ノ狀況ナルモ之レガ爲メ其耕作地  
ニ何等影響ヲ及ボス事ナシ

一、品 名

木綿織ノ二(クレープ地)

二、沿 草

クレープ地ハ明治四十二年頃本  
郡織物組合員水口藤吉初メテ之ヲ製織スルヤ  
大キニ好評ヲ博シ同四十四年ノ頃ヨリ廣ク海  
外ニ迄輸出スルニ至リ俄ニ其産額ヲ増大シ今  
日ニ及ベルモノニシテ今ヤ各機業家共ニ盛ニ  
製造シツ、アリ

三、産 額

一ニ合算ス

四、價 額

一ニ合算ス

五、從業期間及  
從業者種類

一ニ同ジ

六、主 産 地

同上

七、原 料 需 用 供 給

同上

八、製 造 方 法

片撚ノ紡績糸ヲ使用シ足踏ノ織  
機ヲ以テ製織ス一人一日ノ工程十二丈

三、産 額

一六七、二八〇碼(賃織業)

四、價 額

七七一、一一一圓

五、從業期間及  
從業者種類

年中農事ノ傍ラ壯年ノ男女子之  
ニ從事ス

六、主 産 地

安曇、新儀、養庭ノ諸村

七、原 料 需 要 供 給

原料ハ多ク内地紡績絲ヲ用  
フ

八、製 造 法

タイヤ織機ヲ以テ製織ス一人一  
日ノ工程約五丈

九、販 賣

1、用 途 自動車、自轉車等ニ用フ  
2、仕向地 仕向地ハ主トシテ神戸、横濱  
東京方面ナリ  
3、販賣方法 需要者ヨリ直接注文ヲ受ケテ



製造スルモノアリ注文ヲ待ツモノアリ代金ハ品物ヲ送リテ月末ニ受取ルヲ普通トス  
 十、將來ノ見込 タイヤ真地ハ今ヤ其需要日リ増大シ將來益々有望ノ域ニアリ  
 十一、本業トノ關係 本品ハ他ノ織物ニ比シ非常ナル勞力ヲ要スルヲ以テ多クハ壯年男女ノ手ニナルモノナレバ農家ノ副業トシテハ農事上多少支障アルヲ免レズ

- 一、品目 木綿織ノ四(綿ネール)
- 二、沿革 本郡安曇村大字西万木吹田惣太郎ナルモノ明治十八年頃京都ニ於テ其技ヲ習得シ同二十五年郷ニ歸リ饗庭村大字旭宮川久右衛門ニ技術ヲ傳授シ共ニ製織ニ從事セルヲ嚆矢トス其後漸次盛況ニ赴キ同四十二年ニハ年額拾五萬圓ニ昇リシガ爾來世ノ護遷ニ伴ヒ該品ノ需要漸次衰退ヲ來タシ現今ニ於テハ著シク其產額ヲ減少シタリ
- 三、產額 四一、五一四碼(賃織業)
- 四、價額 一〇、三七八圓

多ク需要ニ供セラレツ、アルモ本郡ニ於テハ之レガ設備未ダ充分ナラズ爲メニ從來商機ヲ逸スルコトアルヲ免レザルニ近時「捺染ネール」ノ流行ニ壓倒サレ漸次產額ヲ減少シツ、アルノ状態ナレバ將來之レガ改善ヲ要スルモノアリ

- 一、品目 木綿織ノ五(其他ノ織物)
- 二、沿革 從來製織スルモ沿革詳カナラズ
- 三、產額 白木綿大巾 一四、七〇碼 小巾 三〇、二八反  
 縮木綿 一、六三反 緋木綿 七、二五反  
 二子其他絲入木綿 一、九五反
- 四、價額 白木綿大巾 三、六圓 小巾 一、三三圓  
 縮木綿 三、七圓 緋木綿 四、八圓  
 二子其他絲入木綿 四、六八圓
- 五、主產地 安曇、水尾、饗庭、新儀ノ諸村
- 六、原料需用供給 賃織ニアリテハ織元ヨリ供給ヲ受ケ自家用ニアリテハ地方ハ絲商人ヨリ購入ス
- 七、仕向地及需用ノ狀況 白木綿大巾物ハ京阪地方ニ販出シ他ハ地方ノ需用ニ應ズ

- 五、從業戶數 一九〇戶
- 六、仕向地及需用ノ狀況 冬、春ノ期農家婦女子ノ手ニ成ル
- 七、主產地 饗庭、新儀、水尾ノ諸村
- 八、原料需要供給 原料ハ綿絲紡績ニシテ大阪ヨリ供給ヲ受ケ織元ノ手ヲ經テ再ビ農家賃織者ニ供給セラル
- 九、製造法 經ハ綿絲紡績ノ三十二手緯ハ十手位ヲ用フ一人一日ノ工程十二丈
- 十、販賣 1、用途 衣服及シャツ等ニ用フ  
 2、仕向地及需用ノ狀況 生産額ノ約一割ハ本郡ノ需要ニ供セラレ起毛ヲ終ヘタルモノハ福井、岐阜、北海道ニ販出シ他ハ京都市ニ販出ス  
 3、販賣方法 大抵京都方面ヨリハ書面注文ヲ多シトス而シテ荷造ノ方法ハ十六反ヲ一捆トナシ紙包ニナシタル上更ニ莖ニ包ミテ繩ニ結果シ起毛濟ノモノハ木製箱ニ入レ同方法ニテ販賣ス代金ハ月二回位上京シ注文受取旁々集金ス
- 十一、將來ノ見込 綿ネールハ從來起毛ノモノ

- 一、品目 絹綿交織物ノ一(天鷲絨)
- 二、沿革 天鷲絨ハ今ヲ去ル七年前本郡劍熊村前川捨吉ナルモノ京都市ニ於テ其技ヲ習得シ郷ニ歸リテ同志ト相謀リ西陣ヨリ職工ヲ聘シテ斯業ニ從事セルヲ嚆矢トシ四十二年ニハ海津村大字西濱田中源太夫ナル者京都ヨリ職工ヲ招聘シテ製織ヲ始メ以テ今日ニ及ベリ
- 三、產額 販賣用 九四六反
- 四、價額 六、四三二圓
- 五、從業期間 農繁期ノ外殆ンド年中通ジテ從業ス
- 六、主產地 劍熊、海津ノ兩村
- 七、原料需用供給 原料タル瓦斯絲及綿絲、絹絲ハ京都西陣ヨリ供給ヲ受ク
- 八、製造法 織機ノ構造ハ大体ニ於テ普通木綿織機ト大差ナク製織ノ順序ハ細キ鋼線ヲ差込ミ緯絲ヲ二回宛梭ニテ遅レ箆ヲ以テ製織ス斯クシテ織上グルヤ欸糊ヲ以テ裏張ヲナシ毛天鷲絨ニアリテハ瓦斯絲ノ經絲ヲ切リテ鋼線ヲ取り絹天鷲絨ハ鋼線ヲ横ヨリ抜き取ル原料



絲ハ經ハ瓦斯ノ百番緯ハ綿絲ノ二十番ヲ用フ  
一人一日ノ工程八尺ヲ普通トス

九、販賣

- 1、用途 下駄、鼻緒製造用
- 2、仕向地及需用ノ状況 主トシテ京都鼻緒地製造者ニ直接取引ヲナス
- 3、販賣方法 先方ノ注文ヲ受ケテ販賣スルモノト隨意ニ製織シ置キテ販賣スルモノトアリ
- 十、將來ノ見込 目下該品ノ需要極メテ多ク好況ヲ呈シツ、アルヲ以テ將來農家ノ副業トシテ好適ノ業ナリ

一、品目 水産養殖(養鯉)

- 二、沿革 近時水産業ノ發達ニ伴ヒ沿湖町村ニ於テ農家副業的ニ漸次行ハル、ニ至レリ
- 三、養殖場數及面積 個所三ヶ所内 稻田二ヶ所 池沼五ヶ所 面積 二二五五坪
- 四、産額及價額 産額販賣用 一八六貫 價額 三三圓
- 五、從業戶數 四二戶
- 六、從業期間及從業者種類 年中農事ノ傍ラ沿湖ノ農民之ニ

從事ス

- 七、主産地 今津、本庄、水尾、大溝、櫻庭 百瀬ノ各町村
- 八、原料需要供給 鯉卵ハ自家ノ養育セル成鯉ヨリ採取ス
- 九、販賣方法 成鯉ハ(大抵四年生若クハ五年生位ノモノ)地方ノ需用者ニ販賣ス
- 十、將來ノ見込 養鯉業ハ今ヤ郡内至ル所ニ行ハレツ、アリト雖水利ノ關係上將來有望ナラズ

一、品目 樹苗養成

- 二、沿革 今ヨリ約三十年前本郡朽木村大森孝順ナル者杉ノ種子ヲ採集シテ之ヲ播キ培養シタルヲ始メトシ後縣郡ノ事業トシテ樹苗圃ヲ設定セシヨリ漸次發達スルニ至レリ
- 三、産額 種苗 二二二、〇〇〇本  
杉 二九三、〇〇〇本 榎 二八五、〇〇〇本  
落葉松 三〇〇〇本 栗 五〇〇本  
種 子 三、六〇〇合 内 榎 三、三〇〇合 杉 三〇〇合

ニナル

- 七、主産地 百瀬、朽木ノ兩村
- 八、需要ノ狀況 本郡ニ於ケル製茶ノ業ハ未ダ微々タルモノニシテ僅カニ自家ノ需要ヲ充タスニ過ギズ
- 九、本業トノ關係 製茶期ハ時恰モ挿秧期ニアリテ農事ト衝突スルノミナラズ茶樹ヲ植栽スルトキハ他ノ作物ニ影響ヲ及ボスコト少ナシトセズ

一、品目 木炭

- 二、沿革 本郡ハ西部ニ山地相連ナリ從ツテ薪炭材ニ乏シカラザルヲ以テ木炭ハ往古ヨリ製産アリ明治十年頃ヨリ市場ニ賣買スルニ至リ從ツテ其俵裝ヲ一定シ製品ノ改良大ニ見ルベキモノアルニ至レリ
- 三、産額 額 二、九〇、七五貫 内 自家用 八三三、四三貫 販賣用 一、〇七四、三二貫
- 四、價額 額 八三、三五圓 内 自家用 六八、〇七圓 販賣用 一五、二八圓
- 五、從業戶數 六九五戶
- 六、從業期間及從業者種類 農繁期及酷暑酷寒ノ時期ヲ除ク

四、價額 販賣種苗用 一六六〇圓 種子 二四圓

- 五、從業戶數 一六五戶
- 六、栽培法 樹苗ノ養成ハ秋期ニ於テ樹實ヲ採取シ翌年三月下旬ヨリ四月ニ播種シ發芽約一ヶ月後ニ床替ヲナス
- 七、仕向地及販賣方法 杉苗ハ近來地方販賣ノ外福井縣方面ニ輸出スルニ至レリ殊ニ三年生以上ノモノ需要多シ販賣ノ方法ハ秋期ニ注文ヲ受ケ翌春送付スルヲ普通トシ代金ハ荷着ノ上支拂ヲ受ク
- 八、將來ノ見込 杉苗ノ外ハ需要少ナキモ杉苗ハ最モ本郡ノ土地ニ適スルヲ以テ漸次需要ヲ増シ將來有望ナリ

一、品目 製茶

- 二、沿革 不詳
- 三、産額 額 一、八七五貫 自家用 一、九七五貫 番茶 七、二二三圓
- 四、價額 額 七、二二三圓
- 五、從業戶數 一、三二二戶
- 六、從業期間及從業者種類 毎年五、六月ノ頃農家男子ノ手



外殆ンド年中從業ス

七、主產地 朽木、三谷、高島ノ各村

八、原料需用供給 富豊ナリ

九、製造法

1、順 序 材料ノ富豊ナル山地ニ於テ約二坪位ノ平坦地ヲ作り初ニ於テハ三尺乃至七尺位ノ伐木ヲ山形ニ立テ重ネ其上ヲ礎若クハ菰ヲ以テ覆ヒ更ニ其上粘土約一尺ヲ盛リ之レヲ約四寸位迄ニ固メ茲ニ初メテ竈ヲ製ス竈ハ背後ニ徑四寸位ノ氣抜窓(俗ニ「ケツト」トモ云フ)竝ニ前方ニ高二尺巾一尺二寸位ノ竈口ヲ作り之レヨリ焚火スルコト約三日ニシテ漸次其口ヲ閉鎖シ三日ニシテ全部密閉シ空氣ノ流通ヲ止ム而シテ竈中ニ火氣ノナキヲ認ムヤ曩ニ入レ置キタル材料ハ完全ナル炭トナリ居ルヲ以テ之レヲ取出シ一定ノ寸法ニ切リテ地方ノ習慣ニヨリ二貫五百匁入丸俵又ハ四貫匁入角俵トス斯ク製シタル竈ハ次回ヨリ更ニ材料ヲ入レ前回ト同方法ニヨリ製造スルモノナリ而シテ竈ハ

其土質ノ如何ニ依ルト雖モ大抵二ケ年位使用ニ堪フルコトヲ得ルモノナリ

2、工 程 竈ヲ作りテ製炭スルトキハ百俵(二十五貫俵ニ付二十五日間ヲ要スベク竈ノ設ケアルモノハ十四、五日間ニシテ百俵(四十五貫俵)ヲ製産スルヲ普通トス

十、販 賣

1、仕向地及需 要ノ狀況 本郡市場ニテ商人ノ手ニヨリ郡内ノ需要ニ充ツル外湖東方面へ輸出ス

2、販賣方法 製造者ヨリ直接需要者ニ販賣スルモノアルモ其多クハ物貨集散地ノ商人ヲ經テ販賣ス

十一、將來ノ見込 製炭法ハ從來ナシ來レルマ、ニシテ其手數ヲ要スルハ以上ノ如クナレバ尙之レガ方法トシテ改良ヲ要スルモノ又俵裝等ニ於テモ周密ナル取締ヲナシ以テ一面ニ於テ斯業ノ獎勵ト保護ヲ加ヘナバ前途益々有望ノ域ニ達スルナラント認ム

十二、本業トノ關係 本業ト何等衝突スルコトナク恰好ノ副業タリ

十三、大津市

一、品 目 蔬菜栽培

種類(葉類、蕪菁、胡蘿蔔、牛蒡、葱頭、甘藍及其他漬菜類) 甘藷、馬鈴薯、里芋、南瓜、胡瓜、西瓜、茄子)

二、沿 革 市内尾花川地方ハ往昔ヨリ蕪菁

ノ產地トシテ名アリ即チ近江蕪菁ハ尾花川蕪菁トモ稱セラレタリ近來京都市ノ發達ハ蔬菜ノ需要激增シタル爲メ之ニ供給スベク各農家逐年蔬菜栽培ヲ増大シ現今ノ如キ蔬菜耕作ヲ以テ主要農業ノ如クナルニ至レリ

三、産 額 自家用 七三、〇〇〇貫 販賣用 九五八、二〇〇貫

四、價 額 七二、七八四圓

五、從業戶數 二四〇戶

六、從業期間及從業者種類 年中從事ス然シテ本市内農業者ハ上下ヲ通ジテ蔬菜栽培ニ從事シツ、アリ

七、主產地 大津市尾花川、同馬場、同藤尾

八、販賣方法 尾花川及藤尾ニ於テハ販賣組合ヲ設ケテ販賣シ又ハ京都、大阪、名古屋等ノ各地問屋へ送荷スルモノアリ馬場ニ於テハ各

戶毎ニ青物商ニ販賣ス

九、將來ノ見込 時好ニ應ジ各種ノ蔬菜ヲ栽培シ品種ノ改良ヲ圖ル等向上ニ努力シツ、アルヲ以テ將來益々發達ノ見込アリ

十、本業トノ關係 市内農家ハ米作ノ外蔬菜栽培ヲ爲シ實際ニ於テハ蔬菜ヲ以テ主要農業トスルノ觀アリ之ガ爲メ農村ノ如ク農閑時ナルモノ更ニナク年内ヲ通ジテ業務ニ從事シツ、アリ而シテ米作ト蔬菜栽培トハ季節ニ於テ衝突スルモ當業者ハ之ヲ調節シテ從事シツ、アリ

一、品 目 茶

二、沿 革 往昔ヨリ茶園アリテ之ガ從業者モ少カラザリシガ逐年減少シテ現今ノ狀態トナレリ

三、産 額 販賣用 三二、二〇〇貫

四、價 額 六、五三〇圓

五、從業戶數 一九戶

六、從業期間及從業者種類 年末ヨリ翌年七月迄從業ス從業者種類



者ハ中流農業者トス

七、主產地 大津市藤尾

八、販賣方法 市内製茶業者ニ生芽トシテ販賣ス

九、將來ノ見込 將來發達ノ見込ナシ

十、本業トノ關係 本業ニ何等影響ナシ

一、品目 茶種、紫雲英種、燕菁

二、沿革 茶種及紫雲英種ニ付キテハ別ニ記スベキ沿革ナシ燕菁種子ハ近江燕菁ノ名聲各地ニ喧傳セラレ其種子ノ需要逐年増加スルニ至レリ

三、産額 茶種 販賣用 二八石  
紫雲英種子 販賣用 一五石  
燕菁種子 販賣用 一一石

四、價額 茶種 三〇〇圓  
紫雲英種子 三二七圓  
燕菁種子 三三〇圓

五、從機戶數 茶種 一七戸  
紫雲英種子 一七戸  
燕菁種子 七戸

六、從業期間及從業者種類 十一月ヨリ翌年六月迄

七、主產地 茶種、紫雲英種子。大津市藤尾  
燕菁種子。大津市尾花川

二三四

八、販賣方法 茶種ハ仲買商ニ紫雲英種子ハ種子商ニ燕菁種子ハ種子商ニ販賣ス

九、將來ノ見込 將來格別發達ノ見込ナシ

十、本業トノ關係 本業ニ何等影響ナシ

一、品目 紙パイプ

二、沿革 明治二十七年頃ヨリ兩切煙草用紙パイプ製造業ヲ市内ニ創始スルモノアリ其下職工トシテパイプ卷ヲ爲ス者續出シ其作業簡易ニシテ何等ノ器具ヲ用セズ又工失ヲ加フル必要モナク習熟スルニ從ヒ多ク爲シ得ラル、ヲ以テ市内下流商工業家又ハ無業者、勞働者等ノ子女家族ノ之ニ從事スルモノ逐年増加シ現今ニ於テハ之等細民ノ唯一ノ内職タルニ至レリ

三、産額 五五、〇〇〇萬本

四、價額 紙パイプ製造業 三、三〇〇圓  
パイプ卷工賃 四、六七五圓  
常ニ從事スルモノ約 六八〇〇人  
人員

五、從業戶數 紙パイプ製造業者ニ於テ專賣局

六、從業期間及從業者種類

ノ受負又ハ外國向品ノ注文ヲ受ケタル時ハ其數量巨額ニ達シ一年中ヲ通ジテ之ニ從事シ得ラル、モ近年各地ニ機械製造ヲ爲スヲ以テ逐年減少シ目下之ニ從事シツ、アル者ト雖モ一々年中就業スルハ四ヶ月乃至七ヶ月内外トス從業者ハ前記ノ如ク市内ニ於ケル各方面ノ下流住民ノ婦女ニシテ近來ハ中流ト見ラル、家庭ニ於テモ之ヲ爲スモノ往々見ルニ至レリ

七、原料需用供給 原料タル紙ハ製造間屋ニ於テパイプ型ニ切斷シタルモノヲ各戸ニ配付シ更ニ毎日一定ノ刻限ニ於テ之ヲ取集ニ廻リツ、アリ

八、將來ノ見込 前記ノ如ク近來各地ニ於テ機械製造ヲ爲スモノ類出シ一面時局ノ爲メ海外需要モ減退シタルヲ以テ事業不振ニ伴ヒ價格ノ競落トナリ爲メニ卷キ工賃モ一萬本ニ付七錢五厘乃至八錢五厘ノ安價ニシテ一日ニ一萬本ヲ卷キ得ルハ容易トナサズ斯ノ如キ内職ハ一部勞働者ノ間仕事又ハ子女多數ノ爲メ他ノ内職ヲ爲シ得ザルモノ等ノモノヲ除ク外ハ有

一、品目 刺 繡

二、沿革 本市ノ刺繡ハ數十年前以前ヨリ從業者アリト雖一般家庭ノ内職トスルニ至リタルハ近年ニ屬ス殊ニ近時外國輸品布帛類ノ刺繡及半襟刺繡ハ從業者著シク増加スルニ至レリ

三、産額 工賃 二、五九〇圓

四、從業戶數 三〇戸(四〇人)

五、從業期間及從業者種類 外國輸出ノ期間ハ三四月ヨリ七八月ノ候ヲ期間トシ半襟類ハ七八月頃ヨリ翌年二月頃迄ヲ從業期間トス、

從業者ハ市内下流住民中稍上位ノ部ニ屬スル家庭ニ於ケル子女ノ内職トシテ從事シタリシモ最近ニ於テハ下級俸給生活者又ハ中流家庭ノ子女ニモ從業者アリ之等ハ刺繡ハ他ノ内職

二三五



ノ如ク外見ヲ嫌フコトナキヲ以テ工賃ノ多カラザルモ普通裁縫ト同一ノ觀念ヲ以テ從事シツ、アリ而シテ目下市内ニテ從事シツ、アリ刺繡ノ種類ハ前記外國輸出向ノ外、半襟及洋傘ノ三種トス

- 六、原料需要供給 原料布帛ハ營業者ヨリ供給サレ之ニ刺繡スル絲ハ從業者ノ自辨トス
- 七、將來ノ見込 前記ノ如ク下流住民ノ家庭内職ニ止マラズ中流生活者モ之ヲ爲スモノアルニ至リタルハ大ニ喜ブベキ現象ニシテ將來有望ノ事業ト認ム
- 八、本業トノ關係 ナシ

- 一、品目 羽織組紐
- 二、沿革 明治三十年頃ヨリ京都市羽織組業問屋ノ下職ヲナスモノ市内ニ居住シ之ガ職工ヲ募リタルニ始マリ逐年從業者増加シ現今ニ於テハ市内下流女子ノ家庭ニ於ケル内職トシテ有力ナル事業トナルニ至レリ
- 三、産額 工賃 一、六一〇圓

四、從業戸數 四三戸 (五五人)

五、從業期間及從業者種類 本業ハ一ケ年ヲ通ジテ從事スル能ハズ普通九月ヨリ翌年四月迄ノ八ケ月間ニシテ夏季ハ事業最モ閑散ヲ極ム、從業者ハ多少技術ノ練習ヲ要シ全ク經驗ナキモノハ賃金ヲ得ル能ハズ技術ニ習熟シタル女子ナレバ日給金參拾五錢乃至四拾五錢ノ仕事ヲ爲シ得ラル之ニ從事スルモノハ小商業又ハ低級勤務員ノ家族ナリ

- 六、原料需要供給 原料絹綿絲ハ前記京都市内ノ問屋ヨリ市内下職業者ニ供給シ之ヲ從業者ニ分配シテ製品ニ組上ゲ工賃ヲ得ルニ止リ下織業ハ更ニ工賃ノ幾部ヲ利得スルモノニシテ原料絲ヲ買入ル、等ノ事ナシ
- 七、製造法 若干ノ器具ヲ使用シテ手工ニテ組上グル外特記スベキ事ナシト雖ドモ作業ハ左ノ如ク數種ニ分レツ、アリ
  - 1、完全ナル羽織紐ニ組上グルモノ
  - 2、羽織紐ノ大部分ヲ組上グルモノ (即チ總付ヲナササルモノ)

- 3、單ニ總付ヲナスノミナルモノ
- 4、單ニ總ノミヲ組ムモノ
- 八、將來ノ見込 時ニ流行ノ變遷アリ又ハ一般商業ノ不振等ニ依リ盛衰アリト雖ドモ全ク事

業休止スル事ハナキヲ以テ之ガ從業者ハ他ニ轉業スル事ナシ殊ニ近來活況ヲ呈シツ、アルヲ以テ將來ニ於テモ有望ノモノト認メラル

九、本業トノ關係 ナシ



### 第四章 各府縣ノ副業

最近各府縣ニ於ケル主タル副業ノ産額、價額及主産地等左ノ如シ

#### ○各府縣農家副業調

##### ○静岡縣

種類	産額	價格	主産地	備考
製茶	二、九九二、七四八	六、四一一、二六四	各郡市	
柑橘	八、二五一、八〇六	一、一三〇、三〇五	庵原、安倍、志太、引佐郡	
養蠶	一七八、二〇一	五、八一四、八〇五	各郡市	
煙草	六六六、〇四三	四三五、八〇五	小笠、桑田、榛原、富士郡	
疊表類	一、四三九、五六三	三二七、五三〇	引佐郡	
綿織物	?	八、四九六、九八一	濱名郡	
和紙	?	八五七、八三五	庵原、安倍、静岡、郡市	
梨	二、〇八五、七六六	四一一、二二三	富士、安倍二郡	
家禽	四九六、三二九	二三〇、六八一	各郡市	
牛乳	九、三三二	一一、八三一	田方、志太二郡	

##### ○三重縣

種類	價格	産額	主産地	備考
落花生	六八、八八二	二八四、四八三	濱名、磐田二郡	
生姜	一、二一六、七九七	一三三、八三五	同	
糸瓜	二、七三一、八七〇	六五、一二七	同	
甘藷切干	一、六二一、八〇六	一、九〇二、五六二	榛原、磐田二郡	
工業	?	九九九、〇〇一	市ヲ除ケ外全部	
蠶表	?	一、七六五	河養、桑名、員辨、度會	
英産	?	七、二七六	員辨、度會、南半婁	
生糸	?	四、〇〇〇	員辨	
薪炭	?	三六三、一九九	員辨、鈴鹿、安濃、一志、飯南、多氣、度會	
果樹其ノ他園藝	?	八〇〇	員辨	
素麩及乾餛飩	?	二四、〇七五	員辨、鈴鹿、河養、度會	
萌麥	?	一〇〇、五五三	三重、鈴鹿、度會、名賀	
竹細工	?	一一、二五五	三重	
魚網	?	一九、四七三	三重、鈴鹿、多氣、度會、名賀、南半婁	
	?	六、九三三	三重、志摩	



葛粉及其ノ原料  
 柿果加工  
 紫菜  
 豆腐  
 瓦  
 藍玉  
 綿打  
 疊糸  
 生鉄  
 杉下駄  
 石灰製造  
 炭菰  
 林業  
 製油  
 傘  
 妻楊枝  
 麻布

? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

四、五九一 一志、多氣  
 一、一五〇 多氣、名賀  
 一八四 度會  
 一一一 同  
 二、一三四 同  
 九七〇 同  
 三〇 同  
 二〇〇 度會  
 四八〇 同  
 一五〇 同  
 一、六二五 同  
 三、八〇四 度會、南半妻、北半妻  
 九、九五三 度會  
 一、六七〇 同  
 四五〇 名賀  
 七、四五二 同  
 一四、〇〇〇 同

苗木  
 檜  
 家禽其他畜産  
 養蜂  
 日備其ノ他常設  
 澤庵漬  
 大根切干  
 經木眞田  
 下駄台  
 藤春  
 機織  
 漁業  
 紙業  
 椎茸  
 菅笠  
 土器  
 擬革紙製品

? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

八、六八三 三重、鈴鹿、河藝、多氣  
 一五〇 鈴鹿  
 一〇八、五〇四 鈴鹿、河藝、一志、度會、名賀、志摩、南半妻、四日市  
 九四一 鈴鹿、一志  
 六、九五〇 鈴鹿、度會  
 八二、六四〇 鈴鹿、度會  
 二〇〇 鈴鹿  
 一、五六七 鈴鹿、名賀  
 一、三五〇 鈴鹿  
 二〇〇 同  
 五八、三三一 河藝、一志、多氣、名賀、北半妻、南半妻  
 七八三 河藝、度會  
 一七五、七四九 飯南、多氣、度會、名賀  
 二七、二八四 飯南、多氣、度會  
 一八、八九五 多氣、度會  
 五五〇 多氣  
 八、九〇〇 同



經木細工 三、六三〇 名賀  
 眞綿 二二九 南牟婁  
 製茶 一、〇四一、〇四三 縣下全般  
 繭 五、五七九、六〇九 同

○兵庫縣

種 類 產 額 價 格 主 產 地 備 考  
 藻類 一、五六〇、四二七 神崎、加古、加古、兵庫、飾磨、津名、明石、  
 養 雞 五二九、九四八羽 其他各郡  
 養 卵 二四、〇一二、七一〇個 神戶、加古、武庫、川邊、加東、其他各郡  
 果 實 七九七、五〇八 武庫、川邊、明石、水上、多紀、城崎、養父、  
 杞柳製品 一、五九〇、四七一 城崎郡、出石郡 〔産額ノ主ナルモ、  
 木 炭 七、七〇六、八二四 城崎、美方、養父、朝來、出石、水上、兵庫、佐用各郡 柑橘類  
 竹 細 工 五、四二三、二〇〇 神戶、有馬、姫路、美濃、其他各郡市  
 素 麵 四、二六四、二七五 二、三〇五、四八二 播磨、飾磨、三原、武庫、加古、兵庫、其他八郡  
 凍豆 三六七、五五〇斤 武庫、川邊、有馬、多可、加西、多紀、水上、神崎  
 凍コンニヤク 二九、九五六、七〇〇 四五三、四二一 〔武庫、川邊、有馬、  
 〔寒天製造地〕

○新瀉縣

種 類 產 額 價 格 主 產 地 備 考  
 業 工 品 八〇〇、八〇〇 佐渡、中、北、南蒲原郡  
 竹 製 品 一四〇、〇〇〇 佐渡、北蒲原郡  
 藁草加工品 七二、〇〇〇 西蒲原郡  
 桐 一六〇、〇〇〇 北、中、魚沼郡、東蒲原郡

○佐賀縣

種 類 產 額 價 格 主 產 地 備 考  
 藻 製 品 四六〇、〇〇〇 神崎、杵島郡  
 竹 製 品 七九、〇〇〇 佐賀、杵島郡  
 疊表及莞蓆類 三八、〇〇〇 三養基郡  
 笠 類 一〇、〇〇〇 藤津郡  
 蜂 蜜 一〇、〇〇〇 小城郡  
 櫛 一八〇、〇〇〇 佐賀、神崎、三養基、藤津郡  
 楮 八〇、〇〇〇 東松浦郡

〔自家用數量分明セ  
 ×以下同〕

○山口縣  
 種 類 產 額 價 格 主 產 地 備 考  
 繭 一五、二五二 六二二、二七二 各郡



種 類	產 額	價 格	主 產 地	備 考
家 禽 卵	一、四二〇、〇二七	一〇四、八五六	各郡市	
果 實	五、〇三六、八九五	六一五、八四二	各郡	
和 紙	四一三、三九一	六九七、三二七	玖珂、郡濃、佐波、厚狹、豐浦、美禰、阿武	
經木真田麥稈真田	四九六、七八一	三四、九八五	各郡	
織 物	一、二五五、三二七	二四〇、一一四	同	
畜 產	一三七、三七八	一三三、三〇〇	各郡市	
木 炭	六、六六五	三三三、九八九	同	
蘭 苳	四、七二八、六五一	一一、一三三	各郡	
茶	四六、三三一	一〇八、七八八	同	
醋 酸 石 灰	一七三、一七九	一一、〇〇〇	佐波、吉敷、阿武、玖珂	
藥 蕈 及 叭	三〇、〇〇〇	四二九、三六二	各郡	
澤 庵 漬	六、一一一、二七五	一四二、七七五	郡濃、吉敷	
菊 蕪 芋	三八、八七〇	九二、四一八	玖珂、郡濃、佐波、吉敷、美禰、大津、阿武	
五三二、九三四				
○宮 城 縣				
蓮 類	二、八七九、三四七	一四、九五三	宮城、栗原、名取、黒川郡	大正四年分
繩 類	二、八七九、三四七	五八、一七一	宮城、牡鹿、本吉、名取、志田郡	

○香 川 縣

種 類	產 額	價 格	主 產 地	備 考
草 履 及 草 鞋	一六一、二二〇	三、二一五	名取、栗原郡	
節 枝 草 履	六八八、九〇二	九、七〇八	名取、伊具、刈田、栗原郡	
香 及 叭 類	四、八七〇	三三五	伊香郡	
其 他	三三二、三九〇	一、六四七	登米郡、宮城郡	
麥 稈 真 田	二二三、三五二	七、二〇一		
蠶 繭	四、〇二一、九〇八	五九五、五九七	各郡市	
叭	六、二五〇、五〇〇	二八五、九二九	大川、木田、綾歌、三豐郡	
經 木 真 田	六、六七七、五二〇	二六七、四九〇	綾歌、仲多度、三豐郡	
鷄 卵	三三三、八一六	二〇、六六六	各郡市	
竹 製 品	九、一六六、九〇〇	一八四、一二六	同	
馬 糞 干 草	五六〇、〇〇〇	七〇、二四六	丸龜市、仲多度郡	
苗 木	一、九八三、三四〇	三五、七四〇	綾歌、仲多度、三豐郡	
藩 椒	四四、二六八	一七、一三六	大川、香川、綾歌郡	
除 蟲 菊	四、一八七	八、五九六	三豐郡	
		九、八二五	小豆郡	



埼玉縣

種類	産額	價格	主産地	備考
繭	二六一、七〇六 <small>石</small>	九、六六一、五〇六 <small>円</small>	入間、秩父、大里、北足立、比企、兒玉各郡地方	
茶	二六一、一七〇 <small>貫</small>	七二二、三三六	入間、南埼玉、北足立各郡地方	
菓	？	六八〇、一六〇	北葛飾、南埼玉、北足立各郡地方	
干柿	五四、七一五 <small>貫</small>	三一、九三四	入間、秩父、比企各郡地方	
菓	八五、四七六	一五、七三六	比企、入間各郡地方	
苗木類	？	一〇一、七五〇	北足立、兒玉、入間各郡地方	
紙	？	四八六、六五二	比企、秩父各郡地方	
木炭	三、五八四、四〇九	二九四、七〇五	秩父、入間、比企各郡地方	
養蠶繭	八六、〇〇〇 <small>石</small>	三、九五六、〇〇〇 <small>円</small>	北宇和、東宇和、西宇和、喜多郡	
畜牛生産	五、五〇〇 <small>頭</small>	一一一、〇〇〇	喜多郡、西宇和郡	
果物	七、三四七、〇〇〇 <small>貫</small>	九三四、〇〇〇		
製茶	九〇〇、〇〇〇	八八、七〇〇	上浮穴郡、東宇和郡	
鶏卵	九、七七五、〇〇〇 <small>個</small>	一八五、〇〇〇	各郡	

愛媛縣

岡山縣

種類	産額	價格	主産地	備考
麥稈經木眞田紐	四、九九三、八四四 <small>反</small>	二〇〇 <small>圓</small>	上房、小田、淺口、吉備、後月郡	
花	二八二、二六一 <small>本</small>	六、〇〇〇	都窪、淺口、御津、後月郡	
英産	四〇七、一九三 <small>枚</small>	二八〇	同	
疊表	二、一八六、〇四〇 <small>同</small>	三五〇	同	
吹	四〇、〇〇〇 <small>製鹽用一枚</small>	四〇	兒島、淺口、苫田、後月郡	
繩	二〇、〇〇〇 <small>束</small>	一四〇	同	
ミカド帽子	一八、〇〇〇 <small>一個</small>	一、五〇〇	和氣、赤雲郡	
養蠶繭	二二七、三三三 <small>石</small>	九、二五〇、一九一 <small>円</small>	縣下一圓	
眞綿	二、九八五 <small>貫</small>	五三、〇六一	武儀、郡上、惠那、土岐、稻葉、本巢ノ各郡	
製茶	二六一、四五八	二六〇、二一〇	加茂、武儀、郡上、揖斐、不破、養老ノ各郡	
養蠶(成禽及雛)	一四、三五一、六四五 <small>羽</small>	一六七、九八八	縣下一圓	
養蜂(成蜂)	九八七、九三五 <small>羽</small>	三二〇、三四四	同	
養蜂(蛹)	三、九三九 <small>貫</small>	七、〇五五	同	
養蜂(蜜)	二〇六 <small>貫</small>	四一、二	同	

正繭、玉繭、層繭  
 出穀繭ノ各合計産額及價格トス  
 煎茶及番茶ヲ主トス



種類	産額	價格	主産地	備考
製紙	?	一、一五二、七八六	武儀郡ヲ主トシ揖斐、山縣ノ二郡之ニツク	〔和紙ノミニシテ洋紙ヲ含マス〕
竹細工	?	五〇、五七〇	縣下一圓	
草鞋	七七五、八〇〇	一三、二六二	同	
蔦産	一二、一〇〇	一、一七〇	山縣郡	
蔦履	三八二、一九七	三一、一四〇	山縣、可兒ノ二郡ヲ主トスルモ其他各郡	
草履	二二一、六〇五	二、九四二	縣下一圓	
蔦繩	一四〇、八一	七、〇九七	同	
蔦及	一七、五五七	二、〇三九	同	
倭及	二三五、〇七〇	三、二九五	不破、安八、揖斐ノ各郡及其他	
疊糸	七、一四六	三九、七六二	本巢、揖斐郡ヲ主トス	
行李編	六、二〇〇	四、一八〇	揖斐、本巢ノ二郡	
乾柿	?	八、一二六	加茂、不破ノ二郡	
木炭	五、四四九、七四四	三五六、八二五	郡上、惠那、揖斐ヲ主トシ其他各郡	
炭粉	五三一	一一、四二八	大野、吉城、益田ノ三郡	

○千葉縣

食用農産物 産額 價格 主産地 備考  
 八、七八六、二五四 縣下全般  
 〔自家用消費モ少ナカラス〕

種類	産額	價格	主産地	備考
特用農産物	?	六七三、〇八九	同	
果實	?	五九二、八〇四	同	
苗木類	?	一八、六一五	山武、匝瑳	
蔬菜苗	?	三八八、四七〇	千葉、印旛、東葛飾	
茶葉	?	一三一、五二一	印旛、東葛飾、香取	
繭製絲	一〇八、九一六	四、二〇、〇八九	縣下全般	
座繰製絲	?	八二、五七八	山武、長生、君津	
眞綿	二四九貫	四、二五八	長生、山武	
牛、馬、豚、綿羊、山羊、生産	?	二〇七、三八三	縣下全般	
屠畜	?	二〇四、五一六	同	
牛乳	一〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	安房郡	
家禽	一、六四八、二七五	六五九、一〇八	縣下全般	
産卵	一〇二、五五四、七七六	二、〇〇四、七二三	同	
林産物	?	二、四五〇、五〇八	同	
淡水産漁獲物	?	一八一、三〇〇	同	
疊表及蔦産	?	二八、四九三	安房、夷隅	
蔦製品	?	六五六、五九八	長生、夷隅	

〔主トシテ製品ノ原料トス(但シ數字ハ推算ナリ)〕



○鹿兒島縣

種類	産額	價格	主産地	備考
乾燥野菜	?	八八、三九〇	東葛飾	
揚子類	?	一三、五六七	君津	
竹細工品	?	一四四、八七四	縣下全般	
菅笠	?	六、二四九	長生	
蒟蒻	?	五、二九五	香取、匝瑛	
蓆	?	五二、四五八	君津、山武、東葛飾	
藍	?	四一〇	長生、印旛	
養蠶網	?	七、二六八		
養蠶玉	?	一六九	匝瑛	
養蠶	三、七、九四四石	一、一五八、六九八	各郡市ナルモ薩摩郡ニ多シ	
養蠶	一、三八二、八〇五羽	九八二、六五九	各郡	
養蠶	八、二九七羽	六、八五九	同	
養蠶	二四、四九一斤	七、三九三	同	
養蠶	一、二〇九、九九七	一、九二二、四三二	各郡(大島、熊毛ヲ除ク)	
養蠶	二九二、四八二	五八三、四七五	各郡	
製紙	六五九、三一四	一九五、一四〇	日置、始良郡	
製粉(米)	六七、六八六石	七四、五八〇	各郡	
製粉(麥)	二四、五三三	一五、二四二	同	
製粉(蕎麥)	八、四一八	三二、〇七六	同	
製粉(甘藷)	一一、六一八斤	一、一三五	同	
製粉(甘藷)	三五二、五二〇	二六、七八九	同	
製粉(甘藷)	一三、三九二石	七八、九六二	同	
製粉(米)	一四〇、〇七二	九、九七二	同	
製粉(甘藷)	三三五、二九〇	四二、二三九	同	
製粉(砂糖)	三九、八六七	二二、八七六	鹿兒島市	
製粉(豆腐)	三、一六二、二五五	三三七、三九六	各郡	
製粉(心太)	一〇二、一四一貫	一三、一五〇	同	
製粉(千柿)	二二、八〇八	一四、〇四九	同	
製粉(梅柿)	八一、五五二	八六、八一六	同	
製粉(梅干)	五、一七二石	三五、一三〇	同	
製粉(甘藷切干)	六九七、一六二貫	三〇八、六一一	同	
製粉(大根切干)	一八七、一〇九	五二、〇六三	同	



種	類	產	額	價	格	主	產	地	備	考
淨	庵	渣	五四〇、二六七	七六、七一〇		各郡				
荷	細	麻	二、五八七	五、三四八		同				
蕨	細	工	?	三五〇、七〇四		同				
竹	細	工	二四六、一四五	四二、九九八		同				
棕	細	工	七九六、八一七	八二、四五九		鹿兒島市				
織	物		四七、一九四	一二、六五〇		各郡				
柑	橘	其他果實	三八〇、一二二	二一九、五二三		同				
花	卉	及庭樹	一、五七八、七九〇	二八五、九四四		同				
盆	栽		七四六、九五〇	一八、六八〇		同				
養	豚		一八、三七七	九、八九七		同				
養	豚		六〇、〇〇〇	七九、五四〇		同				
葉	繩、葉	吹	一、〇五一、六七三	一六九、二九七		冰見郡、下新川郡				
葉	蓮		六六三、七二二	三一八、四五五		下新川郡、冰見郡				
蘭	蓮		七七七、二七四	一二三、七七六		冰見郡、射水郡				
菅	笠		九一四、一一〇	一〇九、五九六		西礪波郡、射水郡				

○富山縣

○山梨縣

種	類	產	額	價	格	主	產	地	備	考
和	紙		二、三四六、四二二	一五九、五三〇		冰見郡、西礪波郡				
木	炭		八、三〇五、二五五	一七〇、二九九		各郡				
養	蜂		二七五	五、一七五		縣內各地				
眞	綿		一、五三六	二二、一九三		甲府市				
玉	糸		三、〇八八	八五、六一七		甲府市、中巨摩郡下				
蠶	繭		一、一二六、六三一	六二、八七〇		東山梨郡下				
草	鞋		二〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇		西八代郡下				
搗	栗		六一五	四〇、〇〇〇		東山梨郡下				
乾	柿		?	一三〇、七七三		甲府市、東山梨郡下及中巨摩郡				
千	瓢		七、五〇〇	七、五〇〇		中巨摩郡				
養	雞(卵)		六、五九〇、八五一	一五一、九七八		縣下各地				
木	炭		四、八八三、〇四一	三七六、九六九		北部留、東山梨郡、東八代郡ヲ主トス				
椎	茸		一五、六九四	七、一三九		西八代郡、南巨摩郡				
竹	製品(行李)		?	五五、四五〇		東山梨郡、南部留郡ヲ主トス				



○秋田縣

種類	産額	價格	主産地	備考
農工品	?	五四一、〇〇〇円	南秋田郡、河邊郡	
養蠶	二五、八八七石	?	雄勝、北秋田及平鹿ノ三郡	
養鶏	三九五、〇〇〇羽	?	鹿角、由利及山本郡	
養鴨	一三、八〇二、〇〇〇羽	?	鹿角、山本、平鹿並ニ仙北郡	
果樹	?	四三〇、四五七		
製茸	三七七、三四九貫	五三六、一六五円	山邊、添上、生駒ノ各郡	
蠶繭	二二、七〇四石	一、〇二一、五八四	吉野、宇治、磯城、添上、山邊、宇治ノ各郡	
貝卸	三二九、三二〇貫	八七、三九八	生駒、山邊	
竹製品茶釜	?	三〇、〇〇〇	同	
同其他	?	一〇三、〇九四	同	
家禽	一六九、九九三羽	一七四、五二〇	北葛城、磯城、生駒	
養魚	二五、五四六尾	九四、八〇六	宇治、山邊	
同金魚	九、四二六、五八〇	二五、〇五一	宇治、生駒	
同生駒		四三、九九九	生駒	

○熊本縣

種類	産額	價格	主産地	備考
製繭	五八、一八〇石	二、〇六三、八一二円	菊池、鹿本	〔縣外移出量ハ産額ノ五分内外ノ見込〕
馬匹産牛	一六、五九〇頭	三三五、九〇〇	阿蘇	〔縣外移出生産頭數ノ七割内外〕
疊表英産	一、〇九〇、六〇七枚	二六四、四八九	八代	〔縣外移出量ハ極少數ナリ〕
製茶	一、六六〇、三〇二貫	一九九、〇五八	八代、天草	同
製茶	二八四、九三六	三六六、八九九	球摩	〔縣外移出高ハ生産高ノ四割内外トス〕
菓茶	九一六、六七一枚	八八、三五〇	天草、八代	〔縣外移出高不詳〕
柑橘	一、七一一、六四二貫	三六一、六八〇	玉名、飽託、八代	同
製紙	?	九三、八一五	八代	縣内消費
養鶏	一四八、〇二三羽	二七、二四一	阿蘇、上益城、玉名、飽託	一ヶ年生産離ナ示ス
養鴨	一三、四一七、五八三羽	二五一、八九九	同	〔縣外移出高不詳〕
製繩	二、五二三、九八六束	三二五、六九四円	主トシテ東、西、中、南、北ノ五津輕郡	
製繩	四、五三〇、九六三枚	二〇〇、三二三	同	
吹	二、一三三、四一二	九六、四七八	同	



種類	産額	價格	主産地	備考
草履	六四六、六四五	一七、四八九	主トシテ東、西、中、南、北ノ五津輕郡	
鞋	七二三、四八三	一一、三二八	同	
其他	?	二一、〇八五	同	
繭	五、三九二石	二三三、八二五	主トシテ上北ノ三戸郡及南津輕郡	
生絲	五一四貫	一七、五七〇	同	
蠶種	一一、二六三枚	二〇、三九三	同	
蠶表	一九、五〇〇	八、〇〇六	主トシテ三戸郡地方	
蠶産	一六、五九四	四、七六一	同	
蠶	三九五、一五一羽	一三八、〇八三	北津輕郡、下北郡	
卵	九、四一七、〇三四	一八三、七三七	同	
木炭	五、三九九、四二八貫	二八八、三七一	南、中、津輕郡	
蔓細工	?	四四、七一六	中津輕郡	
林橋	三六、四四六、三四〇	八四四、一〇七	津輕五郡	
馬	七、一五六	四九〇、五八三	上北、三戸郡及南津輕郡	
牛	三、五三八	六四、一四二	同	
竹細工	?	八、六八七	中津輕、三戸郡	

○巖手縣

種類	産額	價格	主産地	備考
養鷄	二六八、七二四羽	八〇、二六〇	各郡	
鷄卵	一一、七〇〇、八七〇個	二〇一、七四〇	同	
養鷄	八五五羽	四三六	同	
鷄卵	三五、二二七個	八四七	同	
産牛	五、五六二頭	一一九、〇三〇	同	
産馬	九、八七三	五四五、六八二	同	
養豚	一、四三九	一五、九六〇	二戸、和賀	
養兔	八〇〇	一〇四	同	
養鯉	一、〇七九貫	一、二四三	和賀	
養蠶	七一、三四四石	二、八九九、二四四	各郡	
坐繰生絲	三、七六六貫	一五三、一七〇	同	
玉絲	一〇六	二、五二六	同	
真綿	九七四	一六、八九七	同	
熨斗及屑絲	六九〇	四、四二九	同	
絹織	二、三九九貫	一六、五八四	二戸、和賀	
絹織交織	二、四八七	四、〇六三	同	



綿織	七八、九九二反	七一、六九四	盛岡、氣仙、西盤井
麻織	二、六五八	八、八二九	岩手、二戸
麻絲	二、三六〇貫	八五四	同、西盤井
漁網地	一六、〇五六反	一四〇、五四八	膽澤、江刺
和紙	?	四九、〇七九	和賀、東盤井
漆器	?	二九、一七七	二戸、膽澤
和傘	六九、五七〇本	一八、七三二	江刺、稗貫
竹細工	八五、九五五個	四〇、二〇一	二戸、和賀
蔓細工	三、七三〇	五六三	稗貫
經木真田	四〇、〇〇〇反	五、〇〇〇	西盤井
籠、木杓子、柄	三四六、九〇〇個	四、八八七	岩手
曲物	?	五〇〇	同
疊表	九九、四五〇枚	二二、二一九	紫波、稗貫
莫産	一五〇、六二五	一三、七九六	同
花産	?	一、〇七〇	盛岡
草履表	二、五四〇足	九、二二五	膽澤
麻裏草履	一〇二、〇九〇		

藥繩	二七〇、二六九束	四九、九〇七	各郡
藁鞋類	一、四三四、〇三五足	二九、九四九	同
叭及筵	三〇一、七五八枚	一七、四三七	同
扱繩	二二、七六〇束	一、一二五	二戸、九戸
箕	三、〇〇〇枚	六〇〇	東盤井、氣仙
蒲ハバキ	八四〇個	六七	二戸、九戸
編笠	三七、〇〇〇	一、三〇〇	膽澤、江刺
箕	二、四七〇枚	六五九	二戸、九戸
蓆	五、六八〇本	一、〇二一	江刺、紫波
蠶網其他	九、一〇〇枚	一、一八六	各郡
麵類	?	三、八〇〇	江刺
氷餅	七、五〇〇箱	一、五〇〇	西盤井
炭俵	?	五、〇〇〇	各郡
木炭	二四、一二三、九九二斤	一、一三九、一七六	同
椎茸	三七、二三四斤	三二、九一六	氣仙
漆液	一、五一八貫	一〇、四九九	二戸
生石灰	二、三七〇、八二三	三八、〇五三	紫波



種類	産額	價格	主産地	備考
苹果	二一五、三一三貫	五八、六二六	二戸、岩手	
梨	三二一、一〇四	五八、一八〇	氣仙	
梅	三、〇二四石	一五、五二三	稗貫	
桃	一〇三、五一四貫	一三、九六七	岩手	
葡萄	二六、七〇六	七、二六八	同	
植物油	三〇五石	一四、一一一	膽澤、江刺	
茶種油粉	一四、四九九貫	三、九六四	同	
製茶	一、三五二	三、四八三	氣仙	
製藍	四、〇二八	一、九九三	二戸、西盤井	
木地	五二六、〇〇〇貫	三、六八二	二戸	
源粉	二四、二九一貫	三、一三四	稗貫	
機織	一四三、〇八八貫	二六六、四三二貫	勢多、群馬、多野郡内各地	
貨織	一、八八六、一五三	八一七、六九九	佐波、山田、邑樂郡内各地	
果實及蔬菜	六八二、三五九貫	八六、五八五	勢多、山田、佐波、碓氷、北甘樂郡	梨、桃、胡蘿蔔、菜、蔥
木炭	六、四三四、八五〇	五二二、四八〇	碓氷、北甘樂、多野、吾妻郡内各地	

○群馬縣

種類	産額	價格	主産地	備考
養蠶	七、三一八、二七〇貫	一三七、一四四	群馬郡、佐波郡	
蠶繭	二二九、八〇〇貫	六、九九四	碓氷郡、吾妻郡	
蠶網	一六、三〇〇	八一五	群馬郡内各地	
繩	一七九、九六五貫	一、七二三	群馬郡、勢多郡各地	
蓆	五四、四八五貫	三、九四三	勢多郡	
花百合	八九六、三五五貫	二四、九〇三	多野郡	
菊	四八七、九五一貫	九七、五九〇	北甘樂郡	
養蜂	四〇〇	八〇〇	吾妻郡	
養魚	七、二四四	五、九六〇	前橋市、碓氷郡	
竹細工	?	七、一六二	碓氷郡	
葛細工	?	六〇〇	吾妻郡	
炭粉	三、二〇〇	二、五五〇	利根郡	
山葵	二、二〇〇	五五〇	山田郡	
鳥根	二〇八、八四二貫	一四六、一八九貫	八束、能義、碓氷川	
木炭	六〇七、〇〇〇貫	六〇六、三〇〇	縣下各郡	



種	類	產	額	價	格	主	產	地	備	考
○茨城縣	椎茸	九七、〇〇〇	九六、九〇〇	那賀、美濃、鹿足郡、隱岐島						
	木材	一、一五〇、〇〇〇	八一〇、〇〇〇	仁多、飯石、美濃、鹿足郡、隱岐島						
	繭	二、四五三、七八八	一、〇〇〇、〇〇〇	縣下各郡						
	紙	四二二、八五一	四一九、一二八	八東、能義、大原、飯石、邑智、那賀、美濃、鹿足郡						
	織物	七六、四九六	七二、一五八	鉸川、美濃郡、松江市、隱岐島						
	繭	一六六、〇七二	六、〇九五、八八五	新治、筑波、結城、東茨城、眞壁郡						
	煙草	二、四五四、四〇〇	三、二一一、一〇〇	久慈、那珂、猿島、東茨城郡						
	製茶	二五三、〇〇〇	五九六、〇〇〇	猿島、結城、久慈、那珂、東茨城郡						
	豚	一九、〇三六	二六六、五〇四	猿島、結城、鹿島、眞壁郡						
	鷄	六九二、七二五	三二二、四一八	新治、東茨城、那珂、稻敷郡						成禽ノミナ計上セリ
	鷄卵	四四、一七四、七〇〇	八七五、四〇〇	同						
	梨	九五七、三四八	一五五、八四九	眞壁、新治、猿島、多賀郡						
	柿	一、〇七三、五〇二	一一七、四三六	同						
	桃	一七六、〇一四	三六、八三五	同						
	結球白菜	八、六四〇、三三一	三〇二、四七三	東茨城、結城、新治、稻敷郡						

○愛知縣

種	類	產	額	價	格	主	產	地	備	考
蘿	菊	二二、六六六、二二三	五六九、一五三	同						
粉	菊	七三、一七〇	一四六、三六〇	久慈、多賀郡						
凍	菊	一三、一一三	二六、二二六	同						
干	瓜	二九、〇〇〇	四二、〇〇〇	結城郡						
蕨	及	五五九、六〇〇	一九、四五〇	行方郡						
養	蠶	?	一三、四四七、五二二	各郡						
養	蠶	?	一、二四九、五二一	同						
養	蠶	?	二九三、〇四八	同						
菓	樹	?	一九九、三二〇	同						
切	干	?	二〇九、七四〇	中島、碧海、寶飯、渥美、八名						
家	畜	?	二二四、二七八	愛知、知多、碧海、額田、東加茂、北、南						
製	炭	?	五五五、一九〇	額田、西、東加茂、北、南、設樂、八名						
製	茶	?	五六、五三五	碧海、額田、南設樂						
製	紙	?	七、三〇〇	東加茂郡						
線	香	?	八四〇	同						



製氷	薯蕷	石粉及硝子粉	陶土	刺繡	葎	苗木	麥稈及經木真田	椎茸	大根漬	亞炭採掘	磨砂採掘	乾草	薪	蠶具	帶	英産及蓮
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
二、八七〇	七、五〇〇	二六、〇四〇	六一、二三〇	六三、五〇〇	一五、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二二、九七〇	五、〇〇〇	八、五四〇	二九、三四〇	三、五四〇	一一、〇〇〇	八、六五〇	二〇、一八〇	八五、二五〇
東加茂郡	葉栗郡	四春日井、西加茂	知多郡	海部郡	同	中島郡	愛知郡	北設樂郡	碧海、愛知	知多郡	同	西加茂郡	額田郡	同	愛知、額田郡	海部、知多、東加茂

○福井縣

漁業	蔬菜栽培	竹細工	間草栽培	養蠶	福井縣	藥細工	紙製品	蘭製品	眞綿	管笠	干柿	竹細工	麻糸	葛澱粉	洋傘柄
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
四二、三五四	四四、八〇〇	五、三五〇	七、三六八	八一六	三九一、一六二	六五、〇〇〇	四〇、三四三	一一、三〇五	一〇、八三〇	九、一五一	八、四五一	八、四〇〇	三、一〇〇	三、六〇〇	七二、四〇〇
同	碧海郡	東、西春日井、額田、八名	愛知、碧海郡	碧海郡	各郡	遠敷郡	丹生郡、大野郡、遠敷郡	吉田郡	丹生郡、足羽郡	南條郡	吉田郡	遠敷郡	南條郡、遠敷郡	南條郡	南條郡

備考  
繩、蓆、蓑、俵、手蓆、吹、春等

疊表、英産

干柿五十箇ヲ以テ  
一把トナス  
竹差、蓆、目籠、蠶座、竹笠等

粗製品及精製品共  
ニ計上セリ  
粗製品ナリ



○京 都 府

種 類	産 額	價 格	主 産 地	備 考
棟 地	三一、七〇〇個	三一七	南條郡	
柳 行 李	三〇〇	一五〇	足羽郡	
木 炭	三、九八八、三四四貫	三二一、五八四円	北桑田郡、天田、愛宕、船井、加佐ノ各郡	
蓮	一、五七二、四一一枚	八三、八九六	綴喜郡	
繩	八五四、九〇〇貫	八四、八九六		
叭	一九、九七二枚	一、八七〇	相樂郡	
草履及草鞋	八、三三六、五五七疋	一〇七、一四一		
其 他	—	三六、四七六		
鹿ノ子絞	—	一五二、一七五	紀伊、葛野、乙訓、相樂ノ各郡	
金 絲	—	二七、三四三	綴喜、久世、紀伊、乙訓ノ各郡	
竹 細 工	—	六九、三二二	南桑田郡	
疊 表	一三七、九五〇枚	二五、九三〇	船井、竹野、熊野郡	
莫 産	三三、二八一	二、九〇七	船井郡	
蠶 網	一三二、九五〇	三、六七三	熊野、天田、加佐、與謝郡	
葎 黄	二五〇	二〇〇	久世郡	

〔自家用ニ供スルモノ多シ〕

○沖 繩 縣

種 類	産 額	價 格	主 産 地	備 考
機 織	九三、四七一反	一一五、八一五	相樂郡、中、與謝、竹野郡	
女 帶 地 類	八、七五二本	二一、三〇四	何鹿及相樂郡	
製 紙	?	六六、〇六四	何鹿、加佐、熊野、天田、與謝、竹野各郡	
土 器	?	五〇〇	愛宕郡	
澱 粉	二、二八一斤	九三四	天田郡	
大 德 寺 納 豆	?	三、〇〇〇円	愛宕郡	
草 花	四〇、〇〇〇貫	四、〇〇〇	同	
菱 採 取	四〇〇石	二、〇〇〇	久世郡	
稻 田 養 鯉	四〇、三二七貫	三九、三一八	南桑田、船井、宇治、愛宕、加佐郡	
養 豚	七二、〇二八頭	四四七、五一七円	各郡區	
疊 表 並 英 産	一六〇、一〇八枚	三五、九九三	島尻、中頭郡	
養 鶏	一二五、七三羽	三四、九五五	各郡區	
織 物	三八、二九五反	八八、〇一二	島尻郡	
阿 且 葉 帽 子	二六四、〇五九、四一〇本	六三、一一九	島尻、國頭、宮古郡	
和 製 原 料	三二四石	一〇、五二三	島尻郡、首里區	



○鳥取縣

種類	産額	價格	主産地	備考
養蠶	六二,三四二石	二,五二九,〇七〇	全縣下	
製炭	五,五八五,一三七石	五九四,七四〇	同	
製紙	?	二五四,八三六	八頭,日野郡	
果樹	一,四三三,〇九二貫	四一八,五五二	岩美,八頭,氣高郡	
蕨類	?	三六八,三一八	東,西伯郡	
菅笠	一三三,五三五枚	一三六,九一九	全縣下	
苧及七島(疊表)	四三,六九九	九,二九六	氣高,東伯郡	
苧細工(英産)	三一,一二八	一四,六二二	八頭,西伯郡	
麻	四六,一四五	二七,八五八	八頭郡	
葉煙草	三八,七六二	二七,八五八	日野郡	
人参	一一,九一六斤	二二,八三二	日野,西伯郡	
草棉	一八五,六三四貫	一三九,二二五	西伯郡	
○朽木	二,八一二貫	八六,九八七	那須,鹽谷及河内,上部賀ノ一部	

○宮崎縣

種類	産額	價格	主産地	備考
養蠶	四,三九一	三七,七一九	下部賀郡	
養蠶(卵)	一五七,八五四	三九,四七六	全縣下	
米穀輸出検査包装用外袋	二〇,八二四,〇〇六個	三三二,三四一	河内郡及芳賀,下部賀,鹽谷各郡	
菅笠	一,五〇〇,〇〇〇枚	五二,五〇〇	下部賀郡	
菅笠	一六三,六一〇ヶ	一一,四三三	下部賀郡	
蓆	四二一,七三〇本	七四,三三七	上部賀郡	
製紙	一四〇,〇〇〇噸	一三五,〇〇〇	那須郡	
莫産	三三三,一三六枚	一九,三〇七	下部賀郡	
荒産	一,四六,七二一	五六,三四五	同	
産馬	七,一八八頭	一六八,五五六円	各郡	生産頭數ヲ記載セリ
産牛	四,一三一	五六,三六一	同	同
豚	五,四四八	八,三六〇	南那珂郡,北諸縣郡	飼育頭數
家禽	三六,五七三羽	?	各郡	同
産卵	一,四三三,七二一個	二一,九一九	同	
果樹	?	三四八,六七八	同	
蔬菜	二一,三三六,九三三貫	一,三七三,一四	同	



種別	産額	價格	主産地	備考
養蠶	三三三,三二五	一,一四三,一七九	北,東諸縣郡,兒湯郡	
茶	一九七,八〇二	三五八,〇一〇	北諸縣,兒湯,東,西白杵郡	
大楮	一六八,二四六	八九,四八三	北諸縣,西白杵郡	
三楮	四四九,二八一	一二四,四八一	南那珂,兒湯,東,西白杵郡	
煙草	七九九,〇〇〇	一九八,三九二	兒湯郡,東白杵郡	
紙	一三九,五二〇	一三七,三一五	宮崎,東諸縣郡,兒湯郡	
砂糖	二六五,一九九	二四九,九七一	東諸縣,兒湯,東白杵郡	
繩	一七五,九九〇	一〇八,三五九	南那珂郡,兒湯郡	
蠶絲	一八一,七〇九	二〇,三四四	宮崎,兒湯,東白杵郡	
生糸	四三七,七四六	七五,六三三	各郡	
蠶繭	九六七	四七,九〇〇	宇佐,下毛,大分,大野ノ各郡	
真綿	五六,七三〇	一,四三七,四四八	宇佐,大野,大分ノ各郡	
林産物	五〇	一,〇八五	日田,玖珠,下毛郡	
木炭	二〇三,六五四	一,〇六八,五三〇	日田,玖珠,下毛郡	
	五,六九七,二五二	四一四,三五二	南海部,直入,日田,下毛,宇佐,東國東ノ各郡	

○大分縣

椎茸	一七九,二六〇	二三三,六八九	日田,南海部,玖珠,東國東ノ各郡
駒嶺	九,五三六	二二二,三五二	大野,直入,玖珠,速見,日田,大分,南海部郡
豚羊	二〇四	三〇五	
山草	二七	二〇二	大野,玖珠
煙草	一八四,九五七	一二一,九七一	西國東,東國東,速見,大分
七島	七二八,四三九	一八六,八七〇	西國東,東國東,速見,大分郡
青島	二九三,六〇〇	八三五,七八一	西國東,東國東,速見,大分郡
檀實	九四,五〇〇	一七,〇一〇	日田郡
竹製品	六九六,五〇〇	八二,五三八	北海部,下毛,大分,南海部
製麻	二,二五〇	二,〇四〇	日田郡
蔬菜	四,四五二,六八五	二九九,四一九	速見,下毛,宇佐,大分市
果實	一,一五六,九二一	三一五,三九一	北海部,速見,大分郡
製茶	五八,八五三	一六八,六一九	日田,速見,大分
養蜂	三五〇	七〇〇	北海部,大分郡
養蠶	三三二,七八九	一四八,七一九	東國東,南海部,速見,大分郡
繭織物	五,三四一,九四二	二,五三八	東國東,速見,大分,南海部郡
絹織物	一七九	二,七五〇	同



綿織物	一二、一八三五	一六、三八〇	東國東、速見、大分、南海部郡
陶器	?	三、〇八〇	日田郡
山葵	?	八〇〇	同
麥稈眞田	一〇、一三五	一、六二八	下毛郡
醋酸	一五〇	一二〇	南海部郡
養魚	五〇二	八八〇	玖珠郡
漁業	一〇二、九六九	四二、〇五六	東國東郡
コンロ(土製)	三五、〇〇〇	八、〇八一	西國東郡
素下駄	一〇、一七五	二五、四三七	玖珠郡
苗木	五四八、〇〇〇	一、三七〇	玖珠郡
竹材	五一、三六四	一九、九五七	大分郡
紙	二〇〇、一五二	九二、三九六	南海部、直入、日田郡
繩	一八一、八九七	三二、五六六	縣下各郡
俵	二五、〇〇〇	一、二五〇	同
吹	七五九、五〇〇	八、七九五	同
草鞋	一一七、三二〇	二、九〇九	同
草履	二四、〇〇〇	三、〇五八	同
		三六〇	同

疊床	八〇	八〇	同
苧	七、九三〇	一、〇八二	同
ダツ	一〇〇	六〇	同
ホダ	二〇〇	一六〇	同
ホダ	二、〇〇〇	一五〇	同
其他	?	二七、七一五	同
蠶業	一四、四二八	五三八、一二六	管内大部
園藝	?	一、六二〇、二八一	都會地附近ノ郡
業細工	?	三五二、四八二	管内大部
織物	六〇八、四四五	一、〇〇〇、四七二	浮羽、三井、三瀧、八女ノ各郡
疊表	一、四八九、六三七	五七三、八八四	三瀧、八女、山門ノ各郡
花紙	二六九、三三七	六七〇、一九〇	八女、朝倉、糸島等ノ各郡
製紙	?		
春蠶	二六、五八四	一、三〇七、八九五	本縣中央部以内



夏	蠶	七、九六二石	三二二、三二二	本縣中央部以內
秋	蠶	一一、二九五	三九四、八八七	同
製	紙	一、三四六、八九四	二、六七四、九四一	吾川、高岡、長岡、香美郡
同		三四、六二九九	一七二、三三九	同
梨	橘	一三二、一六五	五五、六五〇	吾川、高岡、長岡郡
柑	橘	八四二、九一三	一五九、一九二	香美、長岡、土佐、高岡郡
木	炭	九、八五七、〇一六	七四七、〇一二	幡多、高岡、安藝郡
茶		一一五、二〇六	一三二、五八九	吾川、高岡、安藝、香美郡
莫	產	?	?	
疊表及莫產		一一四、四二一	三三、〇四五	吾川、土佐郡
紫雲英種		六六七石	二二、五〇〇	吾川郡南部
麻裏表		二五〇、〇〇〇	一一、二五〇	吾川郡長濱村
漬	物	八〇、四〇〇	一一、〇五五	吾川郡南部
牛馬生產		一、四七七頭	三七、〇一九	馬。幡多、高岡。牛。吾川、香美
雜	茸	四五、四六五斤	二八、六九二	幡多、高岡
松	煙	二六〇、七五二	二四、五〇六	同
棕	皮	三六、六五七斤	一四、八七七	幡多、香美、安藝郡

○石川縣

鷄	卵	一四、三八八、〇三三	二六一、九三四	縣下一般
菜	蓮	二四七、七二六	二三、六九〇	高岡、香美、長岡ノ三郡
倭	(石灰用)	一〇〇、七七〇	一三、一三〇	長岡郡
同	(木炭用)	一、五三七、五九四	三三、六八五	幡多、安藝、高岡ノ三郡
醋酸	石灰	一八、一六九	六、一四〇	幡多、高岡、安藝、長岡
蔬菜	類	一三、七八八、一一九	八〇二、九五九	縣下一般
楮		一、〇〇一、一四一	四五五、七九五	高岡、吾川ノ兩郡
三	極	一、〇四一、六〇九	八二四、九三九	高岡、香美、吾川ノ三郡
杞	柳	四四、九九一	一八、六八三	幡多、高岡ノ兩郡
蘭		一二九、〇五一	三〇、二八三	吾川、長岡ノ二郡
干	柿	一〇、五二八	七、一四三	安藝、香美、高岡三郡
揚	梅	一、四四五	一〇、二八〇	長岡郡十市、三里村
製	繩	九九七、六六六	九二、六八七	縣下沿岸村附近
檜	笠	八七四、四〇〇	三八、九一四	長岡、土佐郡
綿	織物	一〇三、七四九	九五、六五〇	安藝、香美
製	糖	一、七九九、〇九六	一九六、七四六	安藝、吾川、幡多、高岡郡



種類	産額	價額	主産地	備考
藥類	?	六六七、五五一	鹿島、石川兩郡	
養蠶(繭)	三七、五八二	一、四一九、四一三	能美、河北、羽咋ノ各郡	
養蠶(繭)	一、八四九	四二一、三一三	能美、石川兩郡	
養蠶(繭)	一、九六八、二五六	七三、〇〇九	各郡	
養蠶(繭)	一、四一、三五〇	一、三八、三三三	各郡	
養蠶(繭)	五、六四四、五三三	一、七八、二〇〇	同	
養蠶(繭)	?	四〇〇、八一二	同	
果樹	?	六二、一五八	石川、羽咋兩郡	
和紙	二六、三二七	二九一、六九九	金澤市、石川郡	
和紙	二五、〇〇七	一九五、五六一	江沼、能美兩郡	
網及網地類	?	三五五、七一〇	鳳至、羽咋兩郡	
茶	一〇八、七〇九			
木炭	四、八一八、〇二八			
○山形縣				
草履表	?	二二一、八九〇	北村山郡	
繩	?	一〇四、三〇六	東田川郡、北村山郡、最上郡、西田川郡、東置賜郡	
藥	?	三二、五二三	飽海郡、東置賜郡	
疊表及莫産	?	三〇、九七五	東田川郡、東置賜郡、北村山郡	

種類	産額	價額	主産地	備考
和紙	?	一八、七八二	西置賜郡、東置賜郡、北村山郡	
梨	?	八九、七四〇	飽海郡、南村山郡	
苹果	?	八五、九五八	南村山郡、北村山郡、南置賜郡	
櫻桃	?	八四、三五〇	東置賜郡、山形市	
柿	?	三七、七九五	北村山郡、東田川郡、東置賜郡	
桃	?	二五、二七三	南村山郡、東置賜郡、西村山郡	
葡萄	?	二〇、七四四	東村山郡、東田川郡、飽海郡	
葡萄	?	四九、五四四	東置賜郡、東田川郡、飽海郡	
甘藷	?	三七、五三六	東村山郡、東田川郡	
蘿蔔	?	三八、三三二	東村山郡、南置賜郡、東置賜郡、東田川郡	
馬鈴薯	?	二二、一一七	東村山郡、米澤市、南村山郡	
漬菜	?	一六、二二三	東田川郡、南村山郡	
胡瓜	?	一一、三六〇	南村山郡、東田川郡、東村山郡	
芋	?	一四、八八一	東置賜郡、東村山郡	
蕎麥	?	一四、五一五	東田川郡	
楮	?	一三、九九一	西村山郡、東村山郡	
椿	?	四、八四七、一四九	西置賜郡、東村山村、東置賜郡、南村山郡、北村山郡	







三	檜	一二二、二四三	二六、一一六	比婆郡、甲奴郡
杞	柳	一、二六〇	二一〇	蘆品郡、比婆郡
葉	煙草	六〇二、九七五	四六四、〇八九	神石郡、甲奴郡、豐田郡、加茂郡
除	蟲菊	四一、五九三	九二、五八六	豐田郡、御調郡、沼隈郡
黃	蜀葵	一六九、八七七	二一、八九八	御調郡、豐田郡
菜	種	七六九	八、五四七	佐伯郡、高田郡
絲	瓜	三六五、八七〇	三、六八〇	廣島市、比婆郡
梅		五、四七九	三二、六九二	安藝郡、佐伯郡、豐田郡
桃		三〇七、五四三	五八、九五二	豐田郡、佐伯郡、賀茂郡、御調郡
日	本梨	二〇八、二九三	五二、六三一	御調郡、豐田郡、賀茂郡
西	洋梨	一七、七五六	五、三七二	豐田郡、御調郡
生	柿	一、〇一五、六〇八	一四〇、七二九	御調郡、沼隈郡、豐田郡
萃	果	五、九四三	三、〇六七	豐田郡、御調郡、佐伯郡
枇	杷	七二、五四三	一六、七二四	豐田郡、御調郡、安藝郡
葡	萄	一九一、八八〇	五二、〇三七	安藝郡、賀茂郡、深安郡
干	柿	一三三、七八三	七四、四九八	御調郡、沼隈郡、蘆品郡
栗		五、六八七	三二、〇四七	比婆郡、双三郡、高田郡

無	花果	二二二、四二六	四八、五九〇	深安郡、佐伯郡、御調郡
温州	密柑	六三五、二二五	九四、六九六	豐田郡、安藝郡、御調郡
ネーブル	カレンヂ	三四九、二六二	六八、八八八	豐田郡、御調郡、安藝郡、深安郡
夏	橙	七七七、二九一	六四、一二八	豐田郡、御調郡、安藝郡
橙		七一、〇三四	五、四六五	御調郡、豐田郡、廣島市
其ノ他ノ	柑橘	一八五、六五七	二〇、五〇二	御調郡、豐田郡
春	蠶繭	一五五、六八九、一一二	七〇七、八六八	蘆品郡、比婆郡、御調郡
夏	蠶繭	六、二九六、〇四一	二〇、六六三	比婆郡、神石郡、御調郡
秋	蠶繭	九一、三八三、七〇二	二八七、五六八	蘆品郡、比婆郡、深安郡
蠶	種	四八三	四二、五五三	蘆品郡、双三郡
採	桑	四、五八九、一三九	六三三、九七四	蘆品郡、比婆郡、双三郡
織	物	一	二、一九二、四四六	蘆品郡、深安郡、廣島市、御調郡
製	絲	五、五七三、六四九	一六六、二六三	深安郡、蘆品郡、比婆郡
疊	表	三、七九六、一一〇	一、四五四、四六四	沼隈郡、御調郡、尾道市
英	産	八一、一六二	二一〇、五一五	御調郡、尾道市、安佐郡、沼隈郡
輸出	向莞産	八一、四三六	二二〇、八〇九	沼隈郡、廣島市
筆		一六、八一七、七二二	二九五、五三八	安藝郡、賀茂郡、廣島市



石	一七、七二四、三二八	三七八、二〇七	賀茂郡、安藝郡、豐田郡
蠣	三一、七八五	三、一一一	御調郡、廣島市、佐伯郡
麵	一七六、四一一	八九、九八二	吳市、蘆品郡、廣島市
素	四三九、七一	一九三、七三九	御調郡、沼隈郡
履	六、一六七、六五五	九四〇、六七八	廣島市、尾道市、蘆品郡、深安郡
茶	一六六、六四五	八二、一五四	豐田郡、佐伯郡、世羅郡
和紙	六一四、二〇四	八一〇、七六七	佐伯郡、深安郡
麥稈及經水真田	二、三四二、七九六	二六七、八六七	深安郡、廣島市、吳市
漁網	三、八七三、〇二三	三八〇、二八七	賀茂郡、深安郡、沼隈郡、安藝郡
煉瓦	七八、〇八八	六二、六七四	蘆品郡、安佐郡
漆	一五、二六八、一五〇	一一六、一六〇	佐伯郡、豐田郡
瓦	九、〇七〇	七三、八五三	御調郡、尾道市、豐田郡
取卸薄荷	一一、四三五、四一〇	二一四、七二六	賀茂郡、豐田郡、深安郡
澱粉	五二、一三五	一八二、九七五	蘆品郡、沼隈郡、深安郡
桶	一一五、八七五	一七、八七〇	安藝郡、神石郡
木履	五七、四七六	三七、五八一	賀茂郡、廣島市
	一五、四六一、二四〇	九九〇、一一九	沼隈郡、安佐郡、廣島市

麻製品	?	八〇一、一六〇	安佐郡、山縣郡、賀茂郡
藥品	?	六八一、三四〇	沼隈郡、深安郡
水産製造品	?	一、〇三三、九六二	賀茂郡、廣島市、安藝郡
魚肥	?	五、三〇一	同
薪炭	五〇〇、二四一	七六四、〇八四	山縣郡、佐伯郡、比婆郡、双三郡
苗木	一、四六四、八五〇	四、一三五	山縣郡、深安郡
種子	四石	一二六	神石郡、佐伯郡
樹實	五、二一七	二五、七八四	比婆郡、双三郡
樹脂	三六、六七二	一、六九七	同
五倍子	一六、三七二	二、五九一	深安郡、蘆品郡、比婆郡
椎茸	一九、七四一	一三、四三九	山縣郡、佐伯郡、比婆郡
松茸	二五二、九三七	三二、一六五	安佐郡、賀茂郡
諸菌類	一二〇、八七四	一八、三七八	山縣郡、佐伯郡
自然生蔬菜	一一八、九九九	九、一六二	比婆郡、佐伯郡
木炭	五、八八四、六九七	二八五、四五二	比婆郡、山縣郡、双三郡
檜皮繩	六六三、二八〇	六六、六七八	豐田郡、佐伯郡
檜皮	一、四六九	三八〇	山縣郡、佐伯郡



○德島縣

種類	產額	價格	主產地	備考
杉皮	二五、三一八	四、五二九	山縣郡、佐伯郡	
竹皮	二六、八一	四、四九四	安佐郡、比婆郡	
產牛	一七、六九七頭	二六五、四五五	比婆郡、双三郡、神石郡等	
產馬	六四一	六、四一〇	比婆郡、双三郡、山縣郡等	
家禽(雞)	一〇六、八八九羽	四、八一〇	御調郡、深安郡	
鷄卵	一二、一二二、〇九二個	二七四、三三三	御調郡、佐伯郡、深安郡	
合計		一七、九二九、五三七		
養鴨(禽)	九、〇七八、一七四羽	一七〇、六八三羽	各郡市	
養蠶	四、五〇六、九八八枚	一八〇、五一六	那賀、名西、名東、勝浦、阿波、麻植	
蔴	五二六、七七三束	八九、五一	名東、勝浦、那賀、海部、阿波、板野	
繩	二七二、〇五五束	四七、六九三	勝浦、那賀	
依	一、八七四、三〇〇	二八、二七七	勝浦、那賀、板野	
草履、草鞋	八八二、三三三足	一六、三〇四	名東、勝浦、那賀、海部、名西、麻植	
蠶	九七、二八〇枚	六〇〇	阿波、三好	

種類	產額	價格	主產地	備考
素麵	一三一、八〇〇貫	六三、二四〇	阿波、美馬、三好	
果樹	一、一四三、〇八四	七五、五五八	名西、那賀、海部、麻植、三好	
木炭	三、〇九七、三一一	二一八、九五	勝浦、那賀、海部、名西、美馬、三好	
織機	一、一八〇、三三五反	五四九、三二六	那賀、名西、麻植、三好	
茶	八四、八八二貫	六三、三六七	那賀、海部、名西、三好、麻植	
三極、楮	三四七、一四〇	五三、五六〇	海部、麻植、美馬、三好	
紙	一七、一〇二	八九、二九七	那賀、海部、名西、麻植、美馬	
竹細工(籠、箕)	二二一、六五七個	一九、二三六	名東、海部、名西、麻植、板野	
漁獲(鮎、雜魚)	四、五二一貫	九、八三八	海部、名西、麻植	
椎茸	四九、三一〇斤	三六、七七三	海部、名西、麻植、美馬	
棕櫚皮	四、四四九貫	一、二五二	海部、麻植	
簞笠	一九九、〇〇〇枚	八、〇〇〇	名東、名西、美馬	
苗木仕立	一、五六八、四五〇本	一八、六四三	名西、麻植	
畜牛	一七七頭	三、一五六	勝浦、海部	
薪木	五、六〇〇和	二五、〇〇〇	海部	
樵	七、一五〇和	二五、〇〇〇	海部	
革製品(鼻緒、爪掛)	五七〇、〇〇〇足	五一、〇〇〇	名東	
春	三、〇〇〇貫	五、二五〇	同	



種類	價額	價額	種類	價額
養蠶	二〇九、〇二二	味噌製造	一、六八〇	
果樹栽培	二七九、五〇二	干柿製造	二、〇〇〇	
家畜飼養	二三八、三三八	附木製造	一、五五六	
家畜飼養	二一七、四九一	花類栽培	一、二一〇	
蔬菜栽培	一〇一、一七一	苡苳栽培	二、二〇〇	
業細工	八七、七四九	鹽	一、三三五	
木炭製造	六三、八七八	養粉製造	九四六	
椎茸製造	七二、〇〇〇	白薯製造	八〇〇	
冰豆腐製造	一九、六五〇	竹皮細工	一、五〇〇	
織機	一七、七九三	漁業	三〇〇	
素麵製造	一四、七四〇	錫製造	二六七、五七九	
製茶	七、六九七	網糸製造	一、二八〇	
苗木養成	一〇、九五五	牡蠣採取	六二〇	
製紙	七、八二〇	海羅	七六五	
竹細工	四、三〇五	雲丹	一八〇	
鉛製造	三、七一八	殖林	四〇〇	
椿油製造	二、〇七〇	日儲	八、〇〇〇	
菱細工	一、七〇〇	合計	九、一〇〇	
			一、六六一、〇八八	

二八七

○長崎縣

水豆腐	九、六二〇箱	四八、一〇〇	麻植
太布	一、五五〇反	一、八一九	海部
苔編	一二、三八〇枚	一、一七八	同
漆器	一〇五、五〇〇個	二〇、五〇〇	美馬
竹竹皮材	二二、二〇〇本	七、七〇〇	同
卷干柿	一〇〇、〇〇〇個	一、九〇〇	同
傘	九、五〇〇個	一、五〇〇	同
箭	六〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	同
菊玉	八八、〇〇〇貫	八、〇〇〇	那賀
菊玉	八九、五五〇	一一、〇四二	麻植
蠶網	三〇、〇〇〇枚	一、〇〇〇	三好
蘭入紙袋	三、〇〇〇	一、五〇〇	阿波
干芋	五、〇〇〇貫	一、〇〇〇	美馬
蠶苞	七五〇、〇〇〇枚	八五〇	板野
炭團	九三七、〇〇〇個	九〇〇	名四

二八六



○東京府

種	荏原郡	一ヶ年生産見込額	仕	向	地	備	考
養	養	一一、〇四三	同	同	同	同	同
養	養	三、七七五	同	同	同	同	同
養	養	三、二一六	同	同	同	同	同
養	養	二九、〇〇〇	同	同	同	同	同
海苔採取	同	四、八四二	同	同	同	同	同
鷄卵	同	一、一〇〇	同	同	同	同	同
紙	同	三三	同	同	同	同	同
繩	同	六七	同	同	同	同	同
草鞋	同	二、四七〇	同	同	同	同	同
刺子	同	六四八	同	同	同	同	同
麻糸ツナキ	同	六六五	同	同	同	同	同
ビール苞	同	二七、一一〇	同	同	同	同	同
果實	同	二七三、九五九	同	同	同	同	同
計	同		同	同	同	同	同
豐多摩郡	同		同	同	同	同	同

種	北豐島郡	一ヶ年生産見込額	仕	向	地	備	考
養	養	八、三五九	同	同	同	同	同
製	製	二一、〇六一	同	同	同	同	同
養	養	八二、二一六	同	同	同	同	同
澤庵漬	同	二六、〇八〇	同	同	同	同	同
養	養	七七九	同	同	同	同	同
下駄表及草履	同	六二二	同	同	同	同	同
計	同	一三九、一一七	同	同	同	同	同
南足立郡	同		同	同	同	同	同
養	養	五四、〇九三	同	同	同	同	同
製	製	一四、三一四	同	同	同	同	同
養	養	七、〇三三	同	同	同	同	同
養	養	一七、七五三	同	同	同	同	同
澤庵漬	同	八二、六三三	同	同	同	同	同
木綿擦糸	同	一、七〇八	同	同	同	同	同
果實	同	一、二一一	同	同	同	同	同
計	同	一七八、七四四	同	同	同	同	同
群馬及長野方面	同		同	同	同	同	同
東京市	同		同	同	同	同	同



菓細工(飾チ含ム)	一、五八一	東京市
淺草紙類	一四、四二四	同
養鵝卵	九、六五〇	同
草鞋	一〇、七五〇	同、埼玉縣
漁業(ツ魚)	三〇〇	東京市
生地煎餅	一、二二〇	同
草花	六、二七〇	同
計	一四四、一九五	
南葛飾郡		
養鵝業	四四、〇〇〇	東京市
土砂採收業	一三、三〇〇	同、及郡部
乾海苔業	一八五、〇〇〇	同
漁業	八、三九五	同
菓細工注連飾	九、〇三〇	同
同 繩同	一二、八〇〇	同
同 草履	七八〇	同
草鞋	一、三一二	同

苧	一、九六〇	同
盆裁	九、七〇〇	同
製茶	九、一八六	同
苧繩	八、八六〇	同、及群馬、埼玉地方
計	三〇四、三二三	

西多摩郡		
畜牛	六、六八七	郡内
養豚	一三、七二七	同
鶏卵	二九、一一四	東京市及郡内
和紙製造	一、一三四	府下
養蠶	八三三、三〇二	主トシテ府下ノ製絲家ニ供給シ山梨、神奈川方面 へ少量移出ス
計	八八三、九六四	
南多摩郡		
養蠶	九四〇、二四七	主トシテ府下ノ製絲家ニ供給シ山梨、神奈川方面 へ少量移出ス
眞綿	七、一一七	東京市及郡内
目籠製造	二五、九八七	東京市及神奈川縣名古屋地方
蓮叭製造	一八、九二二	神奈川縣、山梨縣及郡内

養蠶ハ主業トシテ營マル、モ  
ノ多キモ本表ハ副業トシテノ  
分ノミニ限ル

養蠶ハ主業トシテ營マル、モ  
ノ多キモ本表ハ副業トシテノ  
分ノミニ限ル



草履、草鞋製造	三、七四八	神奈川縣、山梨縣及郡内
下駄材	四五〇	府中町地方
木炭製造	六五、五〇九	東京市、横濱市及本郡内
氷製造	一、〇〇〇	神奈川縣腰越地方
漁業	一九、三二四	東京市及本郡
鶏卵	三二、三三二	同
養鶏	一六、五八六	同
山葵	三、六六八	東京市、横濱市及郡内
畜牛	四、〇〇〇	郡内
養豚	三、七九五	同
梨	四六、五五一	東京市及青梅町、府中町、八王子町
柿	三六、四六八	同
栗	一五、四四四	郡内
菓纒製造	七、一六一	山梨、神奈川縣及郡内
賃織業	一〇六、五四三	
麻糸纒	七五八	
計	一、三五五、五一〇	

北多摩郡

養蠶	八七三、三六三	長野、群馬、山梨縣方面
畜牛	八二〇	東京及地方
養豚	一八、五四九	同
家禽	八四、二〇八	同
製茶	四一、三二五	東京市及神奈川
果實	二八、五〇〇	東京市及郡部
苗木	五七、〇五〇	群馬、埼玉、神奈川、千葉及府下
織物	八九、一八二	東京、埼玉縣
製絲	三六、六九二	横濱及府下八王子町
計	一、二二九、六八九	
小笠原島		
林枚葉編物細工	二、八八四	横濱方面
同帽子原料	一、三七五	東京市
バナナスリツバ	八六一	横濱方面
菅繩	二、九八〇	島内販賣
養鶏	五、四五九	同

養蠶ハ主業トシテ管マシ、モ  
分ノミニ限ル



養豚、畜牛 二、三六〇  
島内販賣

計 八 丈 島

畜牛 四九、三五〇<sup>四</sup>

養蠶 五七、五九〇  
小笠原、東京、横濱方面

養豚 二、四六九  
東京、横濱、埼玉方面

養雞 三、五五〇  
小笠原島大島等ニ移出シ大部分島内

漁業 四六、五〇〇  
島内

養蜂 五〇  
東京、横濱方面

製炭 二一、三四〇  
横濱

製工 二八  
東京、横濱

竹細工 一二五  
島内

製繩 三〇〇  
同

製蓮 五〇  
同

計 一八一、三五二  
同

生乳 四四、〇七九<sup>四</sup>  
島内

榨實採取 一三、〇八五  
主トシテ島内ナルモ静岡縣ニ幾分移出ス

榨油製造 九、一五〇  
東京及京阪

計 二九、二〇二  
島内及東京

畜牛 五、六六五<sup>四</sup>  
東京、横濱

養豚 一、三〇〇  
東京

養雞 三、四一四  
島内

養蠶 三、九六一  
長野、山梨

漁業 五八、八三一  
東京、遠州

採藻 一六、七一八  
東京方面

牛酪 二五、三五九  
東京

榨油 八、〇七〇  
東京、静岡

木炭 六、八六〇  
東京

炭俵製造 一、四二〇  
島内

苗木 七五〇  
伊豆、相模、其他

果實 二六〇  
島内



扇	六五四	安房
團竹	六六〇	東京、遠州
煮切干	一、七〇五	東京
澁粉	一三五、六二七	
計	二、九一二	東京
養蠶及製絲	二、九一二	東京
御藏島		
養豚	二七八	横濱方面
養雞	四五〇	島内
養蠶	二、二五〇	長野縣
製茶	五〇〇	島内
藥草	三、六〇〇	同
藥履	三五〇	同
蕨	一八〇	同
計	七、六〇八	

大阪府ニ於ケル農家副業一般

本表ハ大正三年三月大阪府ニ於テ開催シタル農家副業成績品展覽會ニ於テ優良ト認め賞状ヲ授與セラレタルモノナリ生産額ハ大正二年度ノ調査

◎受賞名簿

等級	副業ノ種類	生産額	販路	郡名	受賞者
壹等	菓	三一、六四二	大阪、九州、中國地方	三島	味舌村農會
同	密	八二、八四七	東京、大阪、堺、西刺利亞、朝鮮、滿洲	泉北	山瀧村農會
同	麥	二〇、〇〇〇	東京、大阪、神戸、横濱、北米、南米	南河内	高向村農會
同	炭	三〇、〇〇〇	地方	豐能	南豐島村
同	薪	一二、七〇〇	阪堺、河内、和泉	泉北	穴師村
同	繩	四九、〇九二	大阪、西宮、尼崎	豐能	細川村
同	春	四五、〇〇〇	四國、中國、九州、京阪	泉南	田尻村農會
同	苗	七五、〇〇〇	内地及朝鮮	泉北	久世村農會
同	球	五〇、八二八	京、阪、神、馬尼刺、滿洲	泉北	止々呂美村農會
同	煙	一一、七六五	專賣局	三島	山田村
同	木	二〇、六〇〇	池田、尼ヶ崎、京都、大阪、朝鮮	泉北	信太村農會
同	枇	八、五〇〇	大阪、京都、神戸、尼ヶ崎、西宮	北河内	星田村
同	繩	一〇、〇〇〇	大阪	北河内	星田村
同	玻	△六三、三七〇	京、阪、神、東京、名古屋	北河内	星田村
同	齒	△四〇、九六〇	米國、支那、滿洲、印度	北河内	星田村































加工又は製造を行ふ場合に於ては(一)農場の粗容積重量大に或は腐敗し易き等販賣困難なるきものとなすこと(二)製造の残渣を農場に留めること(三)勞力を四時平均に使用し得ること等なる關係あるも原料を全然其他に仰ぎて製造純工業に屬するものに在りては大に其趣を異利益大なるを見出す場合には往々本業を行ふき農期をも顧みず之に従事することあり、又本業を行ふこと粗雑となるに至ることあり。に農家の行へる製造工藝は漸次獨立せる工業向あり、然れども之を農家の副業として行ふ勞賃の低廉なること(二)監督を要せざることを、家賃を要せざることを等の點に於て機械力を充種類の工業とは充分競争することを得べき望が共同して産業組合組織に依り組合の力を利入、生産物の加工、生産物の販賣、機械の使用層有利に之を經營し得べく農家が此點に注意

三	重	八、三二八、六四六	山口	四、七〇四、〇四六
愛	知	一六、三〇八、六一〇	和歌山	二、五八四、六〇四
靜	岡	一九、五八六、五三九	徳島	三、九二一、七一三
山	梨	七、七八五、一八一	香川	二、二八四、六六二
滋	賀	六、六六二、二一三	愛媛	三、七九六、二八四
岐	阜	九、六一四、二九八	高知	五、〇六四、三二三
長	野	一九、〇五六、七三六	福岡	九、一六九、五七一
宮	城	五、四五〇、五六四	大分	八、五九三、六〇二
福	島	一、三五八、三〇四	佐賀	一、八二九、四四九
岩	手	四、四五七、二四六	熊本	四、四八〇、二五七
青	森	二、四四七、七九四	宮崎	二、三七八、四一三
山	形	一、七〇四、七六八	鹿兒島	二、五〇七、〇七三
秋	田	二、一七五、五四八	沖繩	七六八、九〇八
福	井	二、二八六、七〇一	總計	三〇九、二七三、九五九

今や農家經濟の現況を觀察するに一家の支出は益増加して収入の増加之に伴はず爲に憂ふべき状態を呈せる地方稀なりとせず之が救済策としては農業技術の改良、金融の疏通、各方面の共同經營等種々あるべきも小面積より多額の収入を得べき穀作以外特種の集約的農業を行ひ若くは適當の副業を營み以て收益の増加を圖るは適切の救済策たるべきなり。

大正六年二月廿五日印刷  
大正六年三月一日發行

〔非賣品〕

### 滋賀縣内務部

印刷者 河田 貞次 郎

印刷所 西濃印刷株式會社

岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶

西濃印刷株式會社代表者



終

